



沖縄国際大学 大学院案内

OKINAWA
INTERNATIONAL
UNIVERSITY
2023
GUIDE BOOK



地域文化研究科

Regional Culture



地域産業研究科

Regional Business
and Economics



法学研究科

Law

地域社会や国際社会が抱える諸問題の解決をめざし、 より高度な専門知識を学んでみませんか。

大学院の目的は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することにあります(学校教育法99条1項)。沖縄国際大学大学院には、地域文化研究科、地域産業研究科、法学研究科があり、各研究科では、法の定める目的達成のため、幅広い視野に立ち、精深な学識を授けるとともに、各専門分野における研究能力を高めることによって、高度専門職業人としての資質を磨き、地域社会や国際社会に貢献しうる人材の養成に取り組んでいます。

社会問題が複雑・多様化する現代社会においては、学部学科で修得した基礎知識と専門知識を踏まえ、さらに一歩進んで自らが関心を持ち得意とする分野・領域を定め、より高度な専門的知識を修得し、そしてその知識を社会問題解決のため還元することが求められています。

大学院では、自ら学問的関心を高め、問題点や課題を発見し、研究テーマを設定、そのテーマに沿った文献や資料を収集・分析・考察し、その結果を論文に纏め上げなければなりません。そのために

は、先行研究の取り組みやこれまで受け継がれてきた蓄積から多くものを学び、それを踏まえ現状を適切に理解し、未来に向け課題を解決する力を身につけなければなりません。日々怠ることなく、謙虚に根気強く研究に勤む心がけが必要です。言うまでもなく研究活動は、自らの力で成し遂げなければなりません。指導教員をはじめ多くの教員の助言・指導を仰ぎながら、自らの課題を多面的・複眼的に捉え、時には、志を同じくする仲間と交流し議論を深め、自らの考えをまとめる力や人間力を育むことが求められます。

沖縄国際大学大学院には、研究者・教員・企業への就職をめざす院生ばかりでなく、すでに仕事に就いている社会人の方々が、スキルアップや資格取得のため、多様な入試方法を活用し入学しています。沖縄の抱える諸問題の解決をめざし、または地域社会や国際社会に貢献できる人材をめざし、沖縄国際大学大学院において、社会文化・社会科学のより高度な専門知識を学んでみませんか。昨年4月から学生会館が供用されました。本学の学修環境の下で、研究に励んで下さい。本学教職員一同、皆さんを歓迎し、皆さんの努力を支援し応援して行くことをお約束いたします。

学長 前津 榮健 Eiken Maetsu

建学の精神

「真の自由と、自治の確立」

理念

沖縄国際大学は、沖縄の伝統文化と自然を大切にし、人類の平和と共生を支える学術文化を創造する。

そして豊かな心で個性に富む人間を育み、地域の自立と国際社会の発展に寄与する。

本学の目的

学問研究の基本理念に基づき、広く社会に教育の場を提供し、人間性の涵養と科学的知識の啓発につとめ、理性的教養と歴史の進展に深い洞察力を保持する人材を育成する。

キーワード

「平和・共生」「個性・創造」 「自立・発展」

本学の使命

沖縄国際大学は沖縄の発展に貢献するために

(1) アジアの十字路に位置する沖縄のポテンシャルを活かし、万国津梁^{ばんこくしんりょう}の魁となる人材を育成します。

(2) 沖縄の個性を発揮させる研究・地域連携を行います。

※「万国津梁」：「世界の架け橋」という意。1458年に尚泰久王が鑄造させ、首里城正殿に掲げていたという鐘に刻まれた銘文の一部。

教育目標

(1) アジアを中心とする国際社会と対話し、理解し発信する能力を育成する教育をします。

(2) 「沖縄」を見つめ探求し、地域と協働する経験を蓄積させる教育をします。

(3) 夢を描き実現する力、環境変化に適応できる力、すなわち人間力を培う教育をします。

地域連携・研究目標

(1) 地域協働、産学官連携を推進します。

(2) 地域における生涯学習の拠点にします。

(3) 沖縄の発展に寄与する研究を推進します。

CONTENTS

学長あいさつ 1

沖縄国際大学大学院の理念 2

 地域文化研究科 3

南島文化専攻 5

英米言語文化専攻 11

人間福祉専攻 17

 地域産業研究科 23

地域産業専攻 25

 法学研究科 31

法律学専攻 33

大学院の入学から修了まで 39

教育・研究を支援する様々な制度 39

大学院で取得できる資格 40

入学金および諸学費 40

奨学金制度 41

研究環境 41

入学者選抜試験日程 42



Graduate
School
of
Regional
Culture

大学院 地域文化 研究科

南島文化
専攻

英米言語
文化専攻

人間福祉
専攻

理念・目的

地域文化研究科は、南島文化専攻、英米言語文化専攻、人間福祉専攻の3つの専攻から構成され、複雑化する地域社会や国際社会の諸問題を適切に分析し、解決する能力を持った高度な専門的職業人の養成を目指しています。

また、再教育・生涯学習の場として、専門職従事者には系統的な学習の機会を提供し、生涯を通して自己錬磨し、自己形成を目指す人々のニーズに応えるとともに、その成果を十分に生かすことのできる社会の実現を図りたいと考えています。

特定の地域文化についての研究は、他の地域文化との比較へと広がりを見せます。広い視野で物事を見つめることは、自分を客観的にとらえ、価値観や立場の異なる者への理解を深めることにつながっていきます。

多文化・多言語が共存し、価値観が多様化した社会にあって、自他の地域文化への知識と理解を基盤とした研究は、地域社会の未来の創出に大いに寄与するものと思います。



地域文化研究科
研究科長
尚 真貴子
Makiko Sho

地域社会と国際社会の未来を創出する学びの場として

地域文化研究科は1997(平成9)年に開設し、「南島文化専攻」「英米言語文化専攻」「人間福祉専攻」の三つの専攻課程へと拡大、そして発展してきました。「幅広い視野に立ち、精深な学識を授けるとともに、各専門分野における研究能力を高めることによって、高度専門職業としての資質を磨き、地域社会や国際社会に貢献しうる人材を育成すること」を目的としています。

本研究科では、きめ細かいカリキュラムを構成し、充実した研究指導体制をとっています。我々教員は、これまでの研究経験をもとに、テーマの選定、情報収集の方法、修士論文の組み立て方、実際の執筆方法に至るまで、他の教員と連携を取りながら丁寧にサポートしています。また、院生同士、互いに支え合い、学び合い、高め合い、交流を行うことも大切なことです。研究という場において志を同じくする友がいてこそ、語り合える満足感を味わうことができます。互いに切磋琢磨をすることにより、更なる研究成果があげられるでしょう。

研究には、唯一の「正解」というものではありません。まず常識や定説を疑うことからスタートしましょう。そして、情報を収集し多くの専門書を読み込み、常に、自分自身の「世界の見方」を革新していくことが重要です。多面的かつ総合的な思考力と批判的な判断力を獲得し、主体的な学びの姿勢を身につけた人材へと成長していきけるように、果敢に挑戦し、自己研鑽に励んでください。そして、一番大切なことは、研究を「楽しむこと」です。「楽しむこと」こそ、普段意識しない自分自身の中の思わぬ力を発揮させてくれます。

大学院は人生にとっても学びにとっても非常に濃密な時間となります。自分自身と向き合える時間に感謝し、充実した有意義な大学院生活を過ごしてください。そして、将来は、高度な専門性を有し、グローバルな視野と優れた実践能力を備えた人材として地域社会・国際社会に貢献し活躍することを願っています。

地域文化研究科がめざすもの

高度な専門的職業人の養成

現代社会が直面する諸問題の解決には、大学の学部教育だけでは十分対応できません。高度な専門知識・技術の修得が不可欠です。

本研究科では、学部で培った知識・技術を一層高め、社会の要請に積極的に対応しながら、教育、文化、行政、民間の各機関で活躍し、国際感覚を持って今後の社会発展に貢献できるような、高度な専門的職業人を養成していくことをねらいとしています。

また、より専門的・指導的な職務に対応できる資格(中高教諭専修免許や、公認心理師・臨床心理士受験資格など)を取得するための体系的な教育、研究、実践の場を提供します。



生涯学習時代における 学習機会の提供

いま人々は、自己の充実・啓蒙や生活の向上のため、適切かつ豊かな学習の機会を求めています。生涯にわたって学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現を図ることは大学の使命でもあります。

専門職従事者には系統的な学習の機会を提供し、また、地域に根ざした文化へ興味を持ち研究を進めたいと希望する者には学びの場を開きながら、一人ひとりが充実した人生を送るための多様なニーズに本研究科は応えていきます。



文化事業推進のための 人材育成と地域活性化

本研究科の教員は、学識経験者として文化教育事業に積極的に関わり、また、修了生も各地域の文化教育事業に多数従事するなど、地域の文化事業の推進と、人材育成に深くかかわってきました。

本研究科では、これまでの実績を踏まえ、地域振興に貢献できる専門家を養成し、文化教育事業を通して地域の活性化を推進したいと思っています。

地域研究の推進

本研究科は、生活の土台である地域に根ざした研究・教育を重視しています。それぞれの専攻の理念を実現するために、南島地域文化、英米言語文化、社会福祉や臨床心理の研究を一層推進しています。また、今後の地域発展に貢献するためにも、様々な課題に取り組んでいます。

教育研究の国際化

南島地域研究は東アジア、東南アジアとの交流を推進します。また、英米言語文化の研究は、英米を中心とした欧米諸国との交流にとどまらず、広く英語圏諸国との国際研究へとつながります。加えて日本語教育学分野の研究も盛んになってきており、日本語教育の現場で働いている方が在籍し、現場と日本語教育学分野が院生を介して教育研究の広がりをみせています。人間福祉専攻の研究においても、諸外国の福祉現状の比較研究にも発展しています。

また、本研究科では、年ごとに国際交流を拡大してきました。本学姉妹校がある韓国、台湾、中国、フランス、オーストラリア等の諸外国の大学からも、大学院生の交流希望が寄せられています。本研究科は、多様な文化や背景を持つ者とともに学び、国際的な視点で課題に取り組み、新たな知的発見を見出せるような教育研究の国際化推進のために、一層努力していきたいと考えています。



南島の地域特性

地域とは、われわれが生活を共にしながら生きている、ある程度まとまった地理的・社会的空間であり、そこには独自の風土、社会、文化、歴史が存在します。それはわれわれの生活と不離一体のものであり、地域住民に共通するエトスの源泉となっています。地域は国家形成に先立つものです。地域文化研究が地域住民の発展に貢献することはいうまでもありません。

南島文化専攻は、南島地域の文化を教育研究の対象としています。南島地域とは、琉球文化圏を構成する南西諸島の島嶼地域、すなわち屋久島・種子島と奄美諸島間のトカラ海峡に東西に引かれた生物地理学上の境界線である渡瀬線から、八重山諸島の一つ与那国島と台湾の間に引かれた南先島諸島線までの間の地域をさします。

南島文化は琉球文化の別称でもあります。この地域は、台湾・中国・韓国・朝鮮・フィリピンと隣接していることから、東アジアおよび東南アジアとの文化交流地点になっていること、琉球王国の形成発展を軸に独自の歴史をたどってきたこと、それ故にこの地域の文化が日本の中でも独自性を有していることは広く知られています。

文化の伝播ルート、地域的個別形態、変容過程の分析

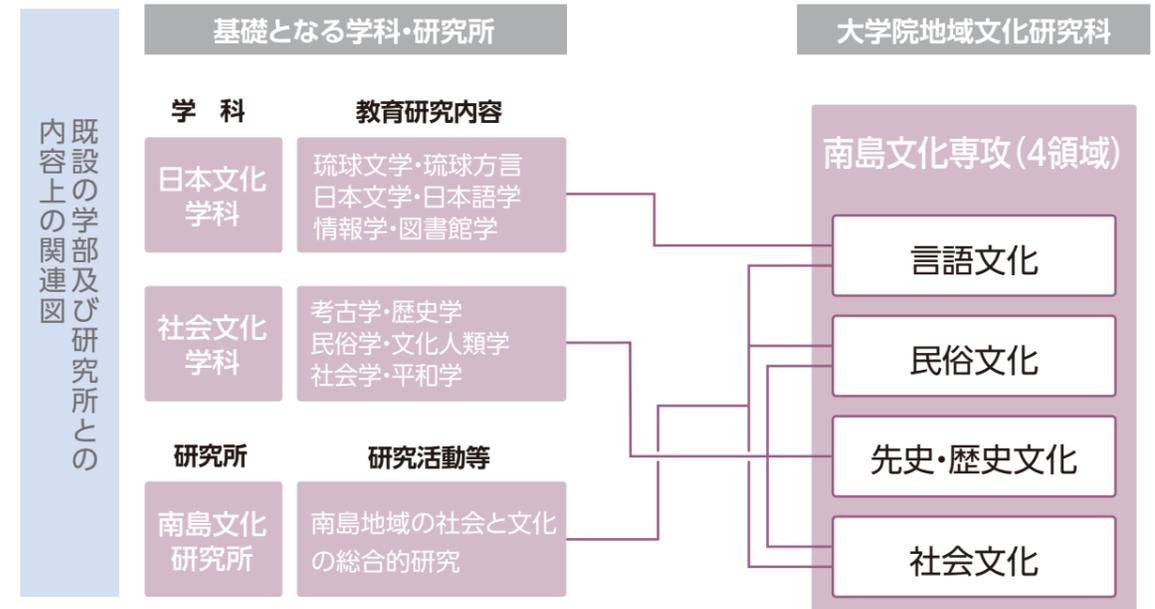
この地域を研究することは、アジア文化の伝播ルート、地域的個別形態、変容過程を明らかにすることにつながります。この研究成果が南島地域だけでなく、日本の文化や社会の理解に貢献できることは共通した認識といえましょう。文化の正しい理解は、経済活動を含め、あらゆる地域活動の基礎をなします。文化の相互理解は、国際交流の基礎でもあることから、研究成果は沖縄および日本と周辺諸国との交流に役立ち、地域活性化にもつながっていきます。

研究対象の領域と地域

南島地域は周辺に東アジア、東南アジア、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアなどの諸地域を有することから、地域文化も多様な広がりを示すことになります。南島文化専攻では言語文化、民俗文化、先史・歴史文化、社会文化の4領域を中心に教育課程が体系化されており、南島地域文化を系統的に研究することができます。

基礎となる学科・研究所

南島文化専攻は、総合文化学部の日本文化学科、社会文化学科を基礎として設置されています。また南島文化研究所は、本研究科を支える重要な関係機関です。



沖縄国際大学大学院 南島文化専攻 3つのポリシー

●ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

本研究科本専攻における所定の教育課程を終え、〈修士〉を授与される大学院生は、以下のような人物です。

1. 南島文化または周辺地域の文化について専門的な知識を身につけるとともに、多様な観点から見る力を培った人物。
2. 南島文化において研究すべき課題を自ら発見し、主体性と協調性をもって解決できる力を身につけた人物。
3. 南島文化の価値を周辺地域または世界へと広めることを社会的な責任として自覚し、国際的な立場から発信しようとする人物。
4. 南島文化および周辺地域に生きる地域住民に共感し、南島地域および周辺地域の発展に貢献できる人物。

●カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

本研究科本専攻では以下のような教育課程を編成します。

1. 南島文化についての専門的な知識を系統的に深めてその課題を見出し、その解決に向けて指導教員と対話的な指導を行う特殊研究科目の提供。
2. 南島文化について、幅広い分野の一流の講師陣が専門的な知識によって対話的な指導を行う特論科目の提供。
3. 自らの課題を公の場で発表し、多くの意見を聞くことによって、学術的な精度を高めると同時に、修士論文執筆に向けた意欲を高める中間発表会の開催。

●アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

本研究科本専攻が入学者として求めるのは、以下のような人物です。

1. 言語文化領域においては、南島地域の言語および文学に強い関心を有する人物。または、日本の古典文学や近現代文学、国語教育学に強い関心を有する人物。
2. 民俗文化領域においては、南島地域の民俗文化に強い関心を有する人物。または、南島地域の周辺地域である東アジア・東南アジア地域の民俗文化に強い関心を有する人物。
3. 先史・歴史文化領域においては、南島地域の先史文化あるいは歴史文化に強い関心を有する人物。または、南島地域の周辺地域である東アジア・東南アジアとの関係史に強い関心を有する人物。
4. 社会文化領域においては、南島地域の社会関係の特質、南島社会における文化問題に強い関心を有する人物。または、南島社会の抱える現代的な問題に深い関心を有する人物。

教育課程の構成

教育課程は大別して言語文化、民俗文化、先史・歴史文化、社会文化の4領域から構成されています。

言語文化

言語文化領域では、南島地域の言語と文学を中心にして、日本の古典文学や近現代文学、さらには国語教育学も研究対象とします。教員の専修免許など高度の免許・資格の取得や官庁職員・一般社会人の再教育などを主な目的としています。

民俗文化

民俗文化領域も、研究の主要対象は南島地域ですが、内容的に東アジア、東南アジアなどの周辺地域との関連性も重要になってきます。教育課程や講義内容も、南島地域の民俗文化を深く掘り下げると同時に、周辺地域への広がりを持ったものになっています。

先史・歴史文化

先史・歴史文化領域での一つの柱をなす考古学は、南島地域の先史文化を研究対象としますが、東アジア、東南アジアなどの周辺地域との比較研究を重視します。もう一つの柱である南島史学は、近世の古文書講読および20世紀における資料の伝来の把握を重視し、南島地域史への理解を深めます。

社会文化

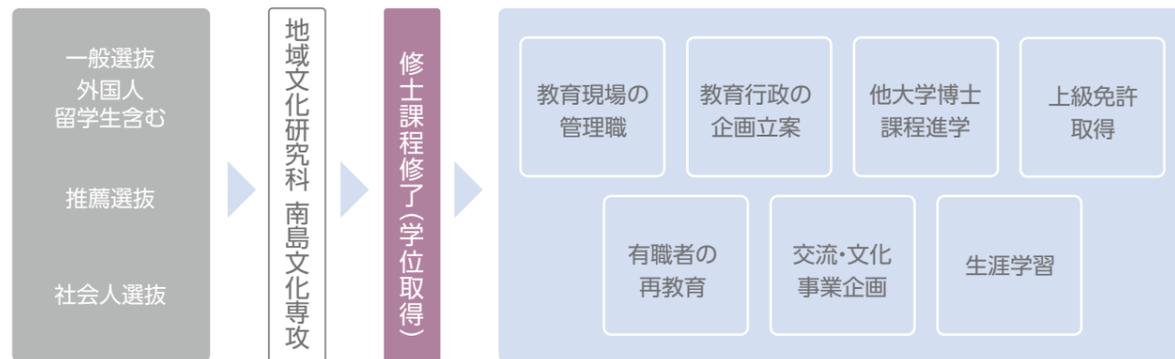
社会文化領域は、社会学を中心として南島地域の社会関係の特質、社会構造の維持メカニズムとしての文化問題などを取り上げていきます。この領域は南島社会の基本構造、人間生成、現実の社会問題処理の側面も含まれます。



専攻内容



修了後の進路



院生からのメッセージ



南島文化専攻
民俗文化領域
幸地 賢吾
こうちけんご

私は幼少期から沖縄の自然環境に強い関心を抱いていました。10代の頃から本格的に生態系に関するフィールドワークを行うようになり、情報収集のツールとして外国語を学ぶ必要があると考え、本学の英米言語文化学科へ進学しました。次第に、南西諸島の人々と生態系との結び付きや、民俗文化に興味を湧き、本格的に民俗学を学ぶことのできる本学南島文化専攻への進学を決意しました。

学部は英米言語文化学科だったので、大学院入学当初は苦労しました。しかし、大学院の講義はどれも少人数で行われるため、それぞれの先生方から私のレベルや関心事に沿った的確な指導を受けることができました。その結果、着実に知識を深めることができ、益々研究意欲が掻き立てられると同時に、次から次へと学びたいことが増えていきました。また、他領域の先生や院生との交流も多いため、様々な視座から自分の研究を問い直すこともできました。沖縄で沖縄のことを学ぶ、この上なく充実した研究環境だと思います。

大学院修了後も、これまでに学んできたことを基礎に、今後もライフワークとして研究を継続し、情報を発信し続ける専門家となることを目指します。



南島文化専攻
社会文化領域
石川 勇人
いしかわゆうと

私は本学の社会文化学科を卒業しました。学部生の時から、沖縄戦体験者への聞き取り調査を行ってきました。沖縄戦体験者と出会う中で、かれらが戦後、戦争体験を語る意味について考えるようになりました。沖縄戦体験者への聞き取り調査は、あと数年と言われているように、もう時間が限られています。そうした状況もあり、体験者との関係性を大切にしながら、かつ自身の研究を深めることができる環境で研究を続けたいと考えようになり、本学の大学院を志望しました。

大学院の講義では社会学を中心に履修し専門性を深めていますが、歴史学や文学の講義も履修しています。研究を進めていく上で、資料読解・テキスト解釈など、他領域の視点が必要になるので、他領域の専門知識を学び、それを自身の研究に応用するように心がけています。自分の専門領域だけに閉じこもるのではなく、他領域へと学びを広げていけるところに、本研究科の魅力があると思います。

修了後は、他大学の博士課程への進学を考えています。最終的には体験者、そして現在フィールドワークでお世話になっている地域の方々へ自身の研究を還元していけるような研究者になることを目標としています。

2021(令和3)年度
修了生修士論文
テーマ一覧

- 『雨月物語』研究——「約」「盟約」「契」を中心に
- 袋小路からの軌跡——梅崎春生論
- 曾野綾子「切りとられた時間」論 ——沖縄戦とキリスト教の表象をめぐる—
- 「久志美沙子研究」 ——マイノリティー集団における女性の視点から—



異文化接触の経験を学術教育研究に活用

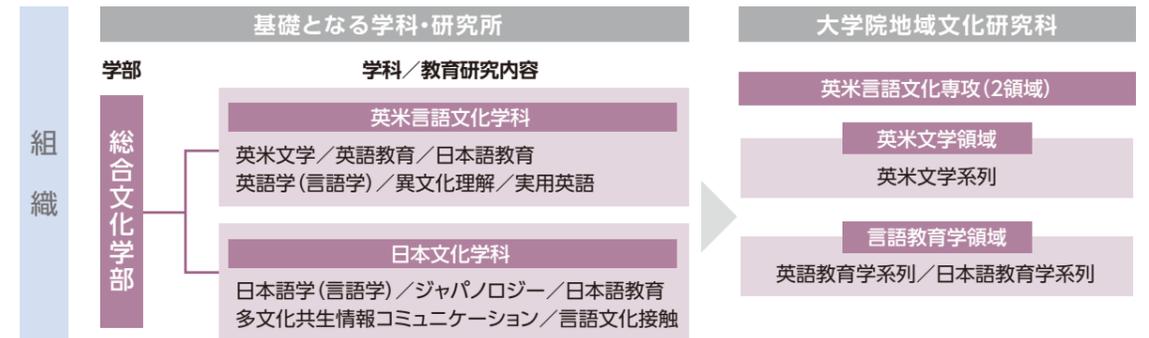
琉球王国時代から、沖縄はヨーロッパやアメリカから渡来した人々との接触を体験してきました。さらに沖縄は、戦後半世紀にわたる南北アメリカとの異文化接触の経験を持っています。このような国際交流の歴史を通して、沖縄には異文化を摂取する意識の面でも、また、異文化接触の実際においても、広く開かれた視野と蓄積されたノウハウがあります。日本の最南端に位置しながらも、沖縄が有する実にユニークかつ有利な文化的特性を、学術教育研究に活用することは極めて有意義であると考えます。

英米言語文化専攻とは

英米言語文化専攻は、地域文化研究科の一専攻として設置されました。本専攻は、英米文学領域と言語教育学領域の二つの領域から成っています。さらに言語教育学領域には、英語教育関係者の養成と有職者の再教育を目標の一つとする英語教育学系列と、国内外における日本語教育関係者の養成にあたる日本語教育学系列があります。いずれの領域も、地域に軸足を置きながら、それぞれの学術教育研究の推進を意図するものです。

基礎となる学科・研究所

英米言語文化専攻は、総合文化学部の英米言語文化学科、日本文化学科を基礎として設置されています。また南島文化研究所は本専攻と関連する施設です。



沖縄国際大学大学院 英米言語文化専攻 3つのポリシー

英米言語文化専攻の教育目標は、①実践的な英語運用力と確かな日本語力、②様々な文化的背景の理解に基づく多文化共生社会を実現していく能力、③専門分野における知識や経験に加えて、他分野の知識や経験を取り入れることのできる応用力をバランスよく備えた人材の育成です。そのために、本専攻では以下のような3つのポリシーを策定しています。

●ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)

所定の単位を修得し、修士論文あるいは特定課題研究の審査に合格した者に対し、以下の資質を有するものと判断し、**修士(文学又は言語教育学)**の学位を与えます。

1. 実社会で通用する高度な英語力および日本語力を有し、自らの考えを発信する能力
2. 異文化理解に基づく多文化共生を可能とし、グローバル化する国際社会に対応できる能力
3. 他領域を横断した知識を備え、自らの専門分野で修得した学問や技術を社会に還元できる応用力

●カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針)

本専攻では、知識・経験・技術を兼ね備えた人材育成を遂行するため、以下の方針に基づいた教育課程を編成しています。

1. 研究分野を英米文学、英語教育学および日本語教育学に専門化すると同時に、他領域横断的な履修を可能とするカリキュラム編成
2. 学際的な研究を推進するため、専攻内共通科目として、特定地域の文化、多民族文化、リテラシーおよびメディア教育に関する講義の提供
3. 学問的交流を深めるため、国内外の大学・研究所の研究者による夏期集中講義の提供
4. 英語コミュニケーション能力を磨くため、英語による授業の提供
5. 英語教員向けの専修免許状に必要な教育科目群の提供
6. 社会人のために便宜を図り、講義を夕方から夜間にかけて開講

●アドミッション・ポリシー (入学者受入方針)

本専攻の教育目標を理解し、幅広い視野と柔軟な思考を備えた受験者を広く国内外から求めます。

1. 言語文化・言語教育に関して強い学習意欲を持つ人物
2. グローバル社会に対応できる専門性の獲得を目指す人物
3. 教育機関における実践的・学術的指導者を目指す人物

教育課程の構成

英米文学領域

英米文学領域は、英米を中心とした英語圏の小説・詩・演劇について研究します。また、英語という言語を軸とした英米文化についての科目群も開設しています。

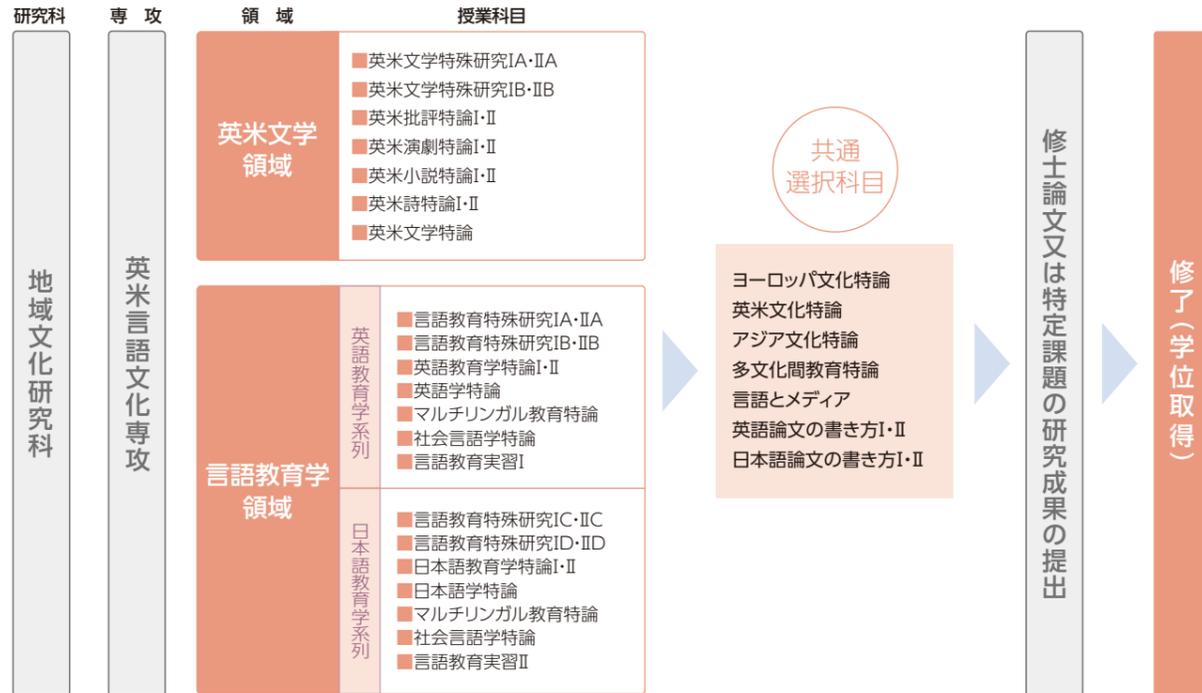
言語教育学領域

言語教育学領域は、言語・文化・教育・社会との関連性を踏まえながら、英語教育および日本語教育について研究します。また、言語教育実習やマルチリンガル教育など、実践的且つ多様な視点から言語教育を考えていきます。

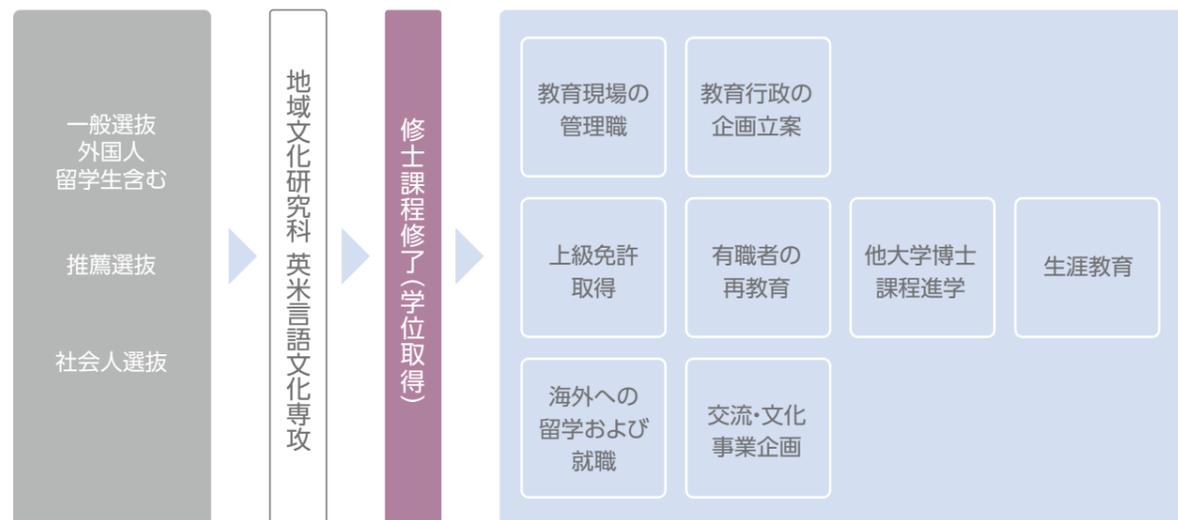




専攻内容



修了後の進路



院生からのメッセージ



英米言語文化専攻
言語教育学領域
大城 彩佳
おおしろ あやか

私は本学の英米言語文化学科で英語科教育について学び、教職課程を受講していました。授業実践を中心に、授業を行う上での工夫や注意点を学びましたが、より深く学び、理論や研究内容から、根拠に基づいた実践ができるようになりたいと思うようになりました。また、卒業論文では、興味のある研究テーマに没頭する楽しさに気付くことができました。学部での経験から、幅広い知識や研究技術を身につけたいという思いで、大学院進学を決意しました。

大学院の講義は少人数で行われ、学生同士で調べた内容を持ち合い、意見交換をする形で講義が進みます。そのため、先生にサポートして頂きながら、知識を高め合い、様々な価値観や考え方を知り、自分とは異なる視点を身につけることができます。また、興味のある分野を突き詰めて学び、研究テーマを形作っていくこと、新しい研究手法を知り、実験をデザインしていくことの楽しさを感じています。

修了後は、教育現場で働き、大学院で身につけた知識や専門性を活かしたいです。授業や活動内容に、「なぜ」この方法が必要で、有効なのかという理由とともに、適切な指導ができるような教師になりたいと考えています。



英米言語文化専攻
言語教育学領域
川満 さおり
かわみつ さおり

私は現在、県内の小学校で日本人英語指導員として英語を教えています。小学生が英語を使いながら楽しく学習するには、どのような授業をしたらいいのか模索する日々です。そんな中、本学の大学院を卒業したばかりの日本語の先生と職場で出会いました。私が授業でうまくいかなかったことを、その先生に相談するといつも的確なアドバイスをしてくださいました。より効果的な授業をするためには、何をどうしたらいいのか考える拠り所が必要だと感じ、本学の大学院への進学を決心しました。

大学院では先生や同じ専攻の院生と対話をしながら授業を進めていくので、他の方々の意見を聞くことで自分の思考を深めることができます。専門知識を学ぶことで、今まで自分が正しいと思っていたことが、実は科学的な根拠のないことだったと知るなど、毎回驚くことがたくさんあります。

何より大学院に入って良かったことは、素晴らしい先生方に出会えたことです。どんな時も公平に、そしてそれぞれの個性に合わせて柔軟に接して下さる先生方の姿勢に感服しています。自分は生徒が心地いいと感じるような接し方ができているだろうか、いつも考えさせられます。

今後は、大学院で学んだことを仕事でも実践できるように努めていきたいです。

2021(令和3)年度
修了生修士論文
テーマ一覧

- 表情と姿勢が多義文の解釈に及ぼす影響
- 時間は「長い」か「多い」か? —ブライミング効果を用いた時間の概念表象についての検討—
- なぜ「くれる」と「～てくれる」が難しいのか —要因を考える—

英米言語文化専攻 専任教員紹介 ※共著者・編著者名・編集(監修)団体名・収録ページは編集の都合上省略しております。

李 炫姪 教授

イ・ヒョンジョン

専門分野 年少者日本語教育、韓国語教育、外国語教育政策

担当科目 言語教育特殊研究 I・II C、日本語教育学特論 I・II

主な著書・論文
<ul style="list-style-type: none">・沖繩における韓国人観光客への言語対応の現状(その三) <ul style="list-style-type: none">— 地域性を考慮した整備に向けて — <i>沖繩国際大学外国語研究第24巻第1号</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2021年 ・沖繩における韓国人観光客への言語対応の現状(その二) <ul style="list-style-type: none">— 他地域との比較から — <i>沖繩国際大学外国語研究第22巻第1号</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2018年 ・沖繩における結婚移住女性を巡る現状に関する調査研究 <i>南島文化第40号</i> (論文)共著/沖繩国際大学南島文化研究所/2018年 ・沖繩における韓国人観光客への言語対応の現状 <i>沖繩国際大学外国語研究第21巻第1号</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2017年 ・学習者のリテラシーを生かした韓国語学習 <i>日本語教育の現場から-言葉を学ぶ/教える場を豊かにする50の実践</i> 共著/ココ出版/2015年

井上 泉 准教授

いのうえ いずみ

専門分野 翻訳論、翻訳教育、エキスパート論、アクティブラーニング

担当科目 多文化間教育特論

主な著書・論文
<ul style="list-style-type: none">・インストラクショナルデザインを用いたアクティブラーニング型学修の設計・実施の意義と課題 <ul style="list-style-type: none">—学修者ピリーフを通して— <i>沖繩国際大学外国語研究 第23巻 第2号</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2020年 ・アクティブ・ラーニングにおける学修者参加型評価の可能性と課題 <ul style="list-style-type: none">—学修者ピリーフの観点から— <i>アクティブ・ラーニング研究 Vol.1</i> (論文)単著/日本アクティブ・ラーニング学会/2020年 ・A Discursive Analysis of Novice-Professional Differences in Problem-Solving Approaches to Translation Challenges <i>通訳翻訳研究への招待 No.20</i> (論文)単著/日本通訳翻訳学会/ 2019年 ・問題解決と翻訳タスク・評価法 <i>通訳翻訳研究への招待 第16号</i> (論文)単著/日本通訳翻訳学会/2016年 ・Applying Task-Based Learning to translator education∴ assisting the development of novice translators’ expertise in identifying and addressing translating challenges <i>Translation & Interpreting Studies (Special issue: T&I pedagogy in dialogue with other disciplines) (Vol.10, No.1)</i> (論文)共著/John Benjamins Publishing Company/2015年

上江洲 律子 准教授

うえず りつこ

専門分野 フランス文学

担当科目 ヨーロッパ文化特論

主な著書・論文
<ul style="list-style-type: none">・マルロー『人間の条件』における「身体性」—女性像をめぐるって <i>アントレ・マルローと現代—ポストヒューマニズ時代の<希望>の再生</i> 単著/上智大学出版/2021年 ・マルロー『人間の条件』における「身体」イメージの混在 <i>ガリア 第54号</i> (論文)単著/大阪大学フランス語フランス文学会/2015 ・マルロー『侮蔑の時代』における身体の表象 <i>沖繩国際大学外国語研究 第17巻第2号</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2014年 ・マルロー『西欧の誘惑』における身体性の萌芽 <i>フランス文学論集 第47号</i> (論文)単著/九州フランス文学会/2012年 ・マルロー『王道』における身体性 <i>待兼山論叢 第39号 文学篇</i> (論文)単著/大阪大学文学会/2005年

兼本 敏 教授

かねもと まとし

専門分野 中国語学・語学教育

担当科目 アジア文化特論

主な著書・論文
<ul style="list-style-type: none">・初級中国語の語順理解に関する一考察 <i>沖繩国際大学総合学術研究紀要</i> (論文)単著/沖繩国際大学総合学術学会/2018年 ・日本語訳 英琉辞書 編集・翻訳/武蔵野書院/2017年 ・『英琉辞書』にみる助数詞と量詞について <i>沖繩国際大学日本語日本文学研究 第19巻第1号</i> (論文)単著/沖繩国際大学日本語日本文学研究/2014年 ・「教本としての『拾口』について <ul style="list-style-type: none">—動詞を中心に— <i>沖繩国際大学総合学術紀要 第16巻第1号</i> (論文)単著/沖繩国際大学総合学術学会/2012年 ・「琉球官話の資料集成における“ア”に関する考察」 <i>沖繩国際大学日本語日本文学研究 第12巻第2号</i> (論文)単著/沖繩国際大学日本語日本文学研究/2008年

Craig K. Jacobsen 教授

クレイグ・ジェイコブソン

専門分野 教育学(比較教育学、国際教育学)

担当科目 言語教育学特殊研究 I B・IIB

主な著書・論文
<ul style="list-style-type: none">・The English Spy Novel and the Foreign Language Teacher Abroad <i>Knowledge Skills and Competencies in Foreign Language Education</i> (論文)単著/National Univeristy of Singapore/2014年 ・Reconstructing the Foreign Teacher: The Nativization of David Crook in Beijing <i>Frontiers of Education in China 7(3)</i> (論文)単著/Higher Education Press/2012年 ・Native Speaking English Teachers in China From 1949 to 1976 <i>Culture in Foreign Language Learning: Framing and Reframing the Issue</i> (論文)単著/National University of Singapore/2012年 ・English Medium of Instruction in Japanese University ELT <i>沖繩国際大学外国語研究 第12巻第1号</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2009年 ・English as an International Language and English Teaching in Okinawa <i>沖繩国際大学外国語研究第6巻第2号</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2003年

里 麻奈美 教授

さと まなみ

専門分野 心理言語学 認知言語学 フィールド実験研究 危機言語

担当科目 言語教育特殊研究 I・II、英語論文の書き方 I・II、英語学特論

主な著書・論文
<ul style="list-style-type: none">・High sense of agency versus low sense of agency in event framing in Japanese <i>Issues in Japanese psycholinguistics from comparative perspectives.</i> (論文)共著/De Gruyter/(in press) ・自己主体感の個人差が主語省略文理解時の視点取得に及ぼす影響 <i>心理学研究, 92(2)</i> (論文) 共著/日本心理学会 / 2021年 ・Agentive versus non-agentive motions immediately influence event apprehension and description: An eye-tracking study in a VOS language <i>Journal of East Asian Linguistics</i> (論文)共著/Springer/2020年 ・Metaphor priming in sentence production: Concrete pictures affect abstract language production. <i>Acta Psychologica, 156</i> (論文)共著/Elsevier/2015年 ・The case of the missing pronouns: Does mentally simulated perspective play a functional role in the comprehension of person? <i>Cognition, 127</i> (論文)共著/ Elsevier /2013年

尚 真貴子 教授

しょう まきこ

専門分野 日本語教育

担当科目 言語教育特殊研究 I D・IID、言語教育実習 II

主な著書・論文
<ul style="list-style-type: none">・英米言語文化学科の日本語教育副専攻課程 <ul style="list-style-type: none">—修了生へのアンケート調査より今後の課題を探る— <i>沖繩国際大学 外国語研究 第21巻第2号</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2018年 ・在校生のアンケート回答から見る沖繩国際大学英米言語文化学科の日本語教育 <i>沖繩国際大学 外国語研究 第20巻第2号</i> (研究ノート)単著/沖繩国際大学外国語学会/2017年 ・「地域の言葉」を外国人は理解しているか <ul style="list-style-type: none">—沖繩県内高校生に対する調査結果との比較から— <i>沖繩国際大学 総合学術研究紀要 第19巻第1号</i> (研究ノート)共著/沖繩国際大学総合学術学会/2017年 ・辞書に見る日本語 <i>沖繩国際大学 南島文化研究所 旧南洋群島調査報告書</i> (報告書)単著/沖繩国際大学南島文化研究所/2016年 ・県内高校生の沖繩の言葉の使用について <ul style="list-style-type: none">—変容していく言葉、残っていく言葉— <i>沖繩国際大学 総合学術研究紀要 第18巻第1号</i> (論文)共著/沖繩国際大学総合学術学会/2015年

素民喜 霞 教授

すみんき かすみ

専門分野 英米文学、沖繩文学、日英翻訳

担当科目 英米小説特論 I・II、英米文化特論

主な著書・論文
<ul style="list-style-type: none">・In the Woods of Memory 目取真俊著『眼の奥の森』の英訳 (翻訳)/ Stone Bridge Press/ 2017年 ・“Island Confinement” 崎山多美著「シマ籠る」の英訳 <i>Islands of Protest: Japanese Literature from Okinawa</i> 翻訳/ University of Hawa1 Press /2016年 ・Medoruma Shun’s Me no oku no mori <i>沖繩国際大学外国語研究 第16巻第1号</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2012年 ・Ichigensan(The Newcomer) デビット・ソベティ著『いちげんさん』の英訳 翻訳/ Ōzaru Books /2011年 ・Sakiyama Tami’s “Suijō ōkan”: Wandering on the Blurred Borders of Identity <i>沖繩国際大学外国語研究 第14巻第1号</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2010年

津波 聡 教授

つば さとし

専門分野 英語教育

担当科目 英語教育特論 II、言語教育実習 I

主な著書・論文
<ul style="list-style-type: none">・Validity of the Number of Words Read in a Two-Semester Extensive Reading Program <i>The Kyushu Academic Society of English Language Education</i> (論文)単著/九州英語教育学会/2017年 ・The effects of using extensive reading as an out-of-class activity <i>沖繩国際大学外国語研究 第20巻</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2016年 ・統合型リーディング指導法の年間適用効果:アクションリサーチを通して <i>沖繩国際大学外国語研究 第18巻</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2015年 ・四技能の促進を図る統合型リーディング指導 <i>沖繩国際大学外国語研究 第17巻</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2013年 ・大規模クラスにおける多読指導の効果 <i>沖繩国際大学外国語研究 第15巻</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2012年

西原 幹子 教授

にしはら みきこ

専門分野 イギリス文学、エリザベス朝演劇

担当科目 英米演劇特論 I・II、英米詩特論 I・II

主な著書・論文
<ul style="list-style-type: none">・George Chapman による「気質」表象—初期喜劇作品を中心に— <i>沖繩国際大学外国語研究 第25巻第2号</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2022年 ・『オセロー』における結婚:「家庭悲劇」との比較から考える <i>沖繩国際大学外国語研究 第20巻第2号</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2017年 ・A Warning for Fair Women における黙劇の機能について <i>沖繩国際大学外国語研究 第19巻第2号</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2016年 ・『ファヴァシャムのアーデン』に見る身分獲得競争のドラマ <i>『シェイクスピア時代の演劇世界』</i> 共著/九州大学出版会/2015年 ・『二つの嘆かましい悲劇』における共同体秩序と「強欲」の危険 <i>沖繩国際大学外国語研究 第18巻第1号</i> (論文)単著/沖繩国際大学外国語学会/2014年

李 イニッド 教授

リ・イニッド

専門分野 言語学、英語教育、マルチリンガリズム、社会言語学

担当科目 言語教育特殊研究 I・II、社会言語学特論、マルチリンガル教育特論、英語教育学特論 I

主な著書・論文
<ul style="list-style-type: none">・Beyond bilinguality: code-mixing, semantic relatedness, and name clustering in Hong Kong racehorse names <i>Chinese Culture in the 21st Century and its Global Dimensions: Comparative and Interdisciplinary Perspectives</i> (論文)単著/ Springer /2020年 ・What do tongue twisters tell us about L2 receptive competence? <i>Studies in English Language and Literature 35</i> (論文)単著/ National Taiwan University of Science and Technology /2015年 ・Defossilization of the Japanese flap for English /r/: An empirical study <i>Journal of Applied English 3</i> (論文)単著/ Ming Chuan University /2010年 ・Reflecting on reflections: A case study of experienced and inexperienced ESL teachers <i>System (An International Journal of Educational Technology and Applied Linguistics) 22 (1)</i> (論文)単著/ Elsevier /1994年 ・Contrastive rhetoric and the Japanese writer of EFL <i>Journal of the Japan Association of Language Teachers 15 (2)</i> (論文)単著/日本全国語学教育学会 (JALTE) /1993年



人間の諸問題に適切に対応できる人材の養成

人間福祉専攻は、社会福祉学領域と臨床心理学領域の2つの領域から構成され、時代や社会の必要性に応え、現代社会における人間の好ましいあり方について研究できる人材を養成するとともに、そこで起こる諸問題に対して適切に対応し、解決が図れるような専門的人材を養成することを目的としています。

社会人・有職者教育の重視

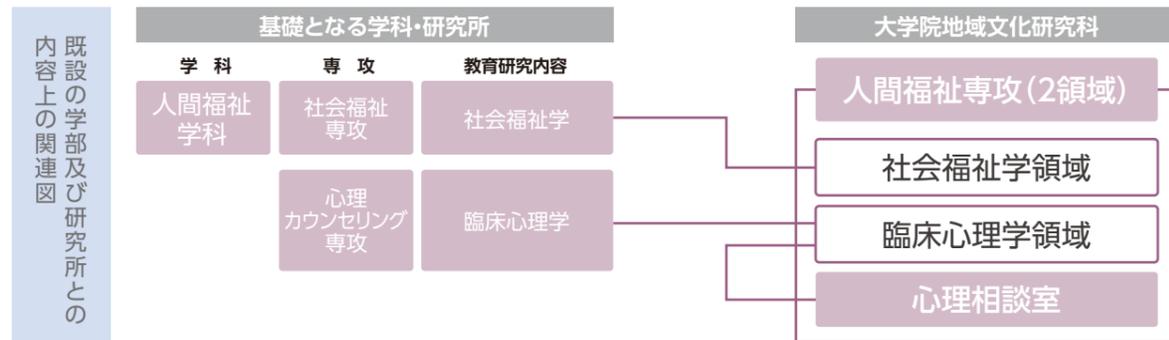
人間福祉専攻においては、生涯教育や現場従事者の再教育の必要性を踏まえ、一般社会人や福祉・医療・教育等の現場に従事する有職者を積極的に受け入れています。特に、選抜試験において社会人を重視した入試の方法をとっています。また、講義の開講形態も昼間に仕事を持つ有職者の科目履修が可能となるように夜間での開講を基本としています。ただし、臨床心理学実習は昼間の実習を夜間の講義で検討する昼夜の開講となります。

社会に必要とされる実践的カリキュラム

人間福祉専攻においては、現代社会のニーズや地域性を考慮したカリキュラムの編成と指導体制を重視しています。特に、社会福祉学領域においては、社会福祉施設や地域福祉従事者に必要とされる科目を配置するとともに、専門的な研究ができる研究体制がとられています。また、臨床心理学領域においては、保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働の各分野で活躍できる公認心理師・臨床心理士を養成するのに必要な科目をそろえ、特に実習を重視したカリキュラムが用意されています。

基礎となる学科・研究所

人間福祉専攻は、総合文化学部人間福祉学科を基礎として設置されています。



心理相談室とは

地域文化研究科の附属施設として心理相談室を2003年12月に設置しました。心理相談室は、地域社会の人々のこころの健康に貢献するとともに同研究科人間福祉専攻臨床心理学領域の大学院生の教育、訓練のための施設として設置しています。相談室での外来面接等は、教員や相談室専任の嘱託公認心理師・臨床心理士の指導のもとで大学院生が担当します。さらに担当するケースについて実践記録をまとめ、ケースカンファレンスに参加し、臨床能力を身につけていきます。



教育課程の構成

教育課程は、大別して社会福祉学と臨床心理学の2領域から構成されています。

社会福祉学

社会福祉学領域では、現代社会の諸問題に対して科学的な方法をもってその実態を明らかにし、社会福祉の価値・理論を根拠にその解決の方策を考えることができる人材を養成しています。カリキュラムは、社会福祉学の原理やソーシャルワーク理論を丁寧に学ぶことができると共に、学生ひとりひとりの関心に合わせて専門的知識を深く掘り下げることができる内容になっています。また、沖縄の社会課題だけでなく広く世界に目を向けながら研究を進めることができます。社会構造を深く分析するためには幅広い知識が求められることから、他専攻や他大学の講義を履修している学生もいます。このように学生ひとりひとりが広く深くじっくり学ぶことができる環境を提供しています。

臨床心理学

臨床心理学領域では、人間のこころの問題に対して、専門的な立場で具体的・実践的に対処できる専門家を養成することを主眼としています。そのために、公認心理師・臨床心理士養成に必要な科目を中心に据え、理論と実践の両面から豊かな専門的学識を修得できるカリキュラムを編成し、実践力を養成するための指導を行います。臨床心理学領域は、公認心理師法に定められたカリキュラムを設置し、かつ、財団法人・日本臨床心理士資格認定協会の実施する「臨床心理士」の資格試験に関する受験資格を有する大学院(1種)として指定されています。本領域修了後には、公認心理師国家試験と臨床心理士試験の両方の受験資格が得られます。

人間福祉専攻 3つのポリシー

人間福祉専攻 社会福祉学領域

●ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

人間福祉専攻社会福祉学領域においては、以下のすべての条件を満たした人物に「社会福祉学修士」の学位を授与します。

1. 社会福祉学領域が指定する必要な科目を履修及び単位を取得し、必要な見識を有すると認められた人物。
2. 自らの専門領域について、専門的な見識と研究方法を有すると認められた人物。
3. 自らの専門領域における研究課題について、一定以上の条件を満たした研究活動によって修士論文をまとめ、最終試験に合格した人物。

●カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

人間福祉専攻社会福祉学領域においては、以下の方針に基づいた教育を行います。

1. 学生各自の目指す専門領域について見識を深め、将来個人や社会の福祉問題に関する適切な研究活動ができるように指導します。
2. 各教員の専門領域と関連させ、個別的な指導体制をもって各学生の研究活動を支援する体制をとります。
3. 指導においては、理論と実践を関連させるために、現場との連携を重視した指導を行います。

●アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

人間福祉専攻社会福祉学領域においては、以下のいずれかの条件を満たす人物を本課程の学生として受け入れます。

1. 社会福祉学に関する一定以上の知識と語学力を有すると認められた人物。
2. 在職する行政機関、社会福祉施設、社会福祉協議会、医療機関等の長から推薦がある人物で、一定以上の社会福祉学に関する知識を有すると認められた人物。
3. 学校、教育委員会等の代表者の推薦がある人物で、一定以上の社会福祉学に関する知識を有すると認められた人物。

人間福祉専攻 臨床心理学領域

本領域の教育目標

1. 臨床心理学領域における専門的知識と技能を兼ね備え、保健医療、福祉、教育その他の分野において活躍できる公認心理師・臨床心理士を養成します。
2. 時代や社会の要請に応え、現代社会における人の安寧につながる研究ができる人材を養成します。
3. 現代社会における諸問題について心理学的視座から、高度な専門的スキルを用い、多職種と協働しながら、実践的な問題解決が図れる人材を養成します。

●ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

本領域は、領域所定の教育課程を終え、本領域の教育目標を達成した学生を、以下の資質を有する人物と認め、修士(臨床心理学)の学位を授与します。

1. 臨床心理学および心理学の各領域に関して、一定以上の見識を有している。
2. 自らの専門領域について一定以上の専門的な見識と研究方法を有している。
3. 自らの専門領域における課題について、実証的な研究活動によって一定レベル以上の修士論文にまとめることができる。
4. 実習において、一定以上の臨床心理学的知識・技術・技能を身につけている。

●カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

本領域の教育目標およびディプロマ・ポリシーを実現するために、以下の方針に基づいて正課教育を編成し、正課外教育を展開します。

1. 臨床心理査定を高めるための講義・実習を提供する。
2. 臨床面接のスキルを高めるための講義・実習を提供する。
3. 臨床心理学的地域援助の実践力を高めるための講義・実習を提供する。
4. 臨床心理学的研究・調査を可能にするための科目群を提供する。

●アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

本領域の教育目標を理解し、人間のこころに関心を持ち、幅広い視野と柔軟な思考を備え、高度な専門職をめざす、以下のような人物をもとめます。

1. 公認心理師・臨床心理士をめざす人物。
2. 心理学の基礎的知識と対人関係能力を、一定以上身につけている人物。
3. 心理学の実証的研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できる力が身につけている人物。
4. 心理学的視座から現代社会における諸問題について関心を持ち、人とのつながりの中で実践的に問題を解決していくことができる人物。



専攻内容

研究科	専攻	領域	授業科目
地域文化研究科	人間福祉専攻	専攻基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> 人間福祉特論 保健医療分野に関する理論と支援の展開
		社会福祉学	<ul style="list-style-type: none"> 人間福祉特殊研究IA 人間福祉特殊研究IIA 人間福祉特殊研究IB 人間福祉特殊研究IIB 人間福祉特殊研究IC 人間福祉特殊研究IIC 人間福祉特殊研究ID 人間福祉特殊研究IID 人間福祉特殊研究IE 人間福祉特殊研究IIE 社会福祉研究法特論I・II 社会福祉実践演習I・II 先端社会福祉研究特論 保健医療福祉特論I・II 福祉老年学特論I・II 子ども家庭支援特論I・II 地域共生社会特論I・II 障害と支援・ケア特論I・II 社会心理学特論 対人援助特論I・II 福祉分野に関する理論と支援の展開
		臨床心理学	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理学特殊研究IA 臨床心理学特殊研究IIA 臨床心理学特殊研究IB 臨床心理学特殊研究IIB 臨床心理学特殊研究IC 臨床心理学特殊研究IIC 臨床心理学特論I 臨床心理学特論II 臨床心理査定演習I (心理的アセスメントに関する理論と実践) 臨床心理査定演習II 臨床心理面接特論I (心理支援に関する理論と実践) 臨床心理面接特論II 臨床心理基礎実習 心理実践実習I 臨床心理実習 (心理実践実習II) 心理学研究法特論 心理統計法特論 人格心理学特論 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 認知心理学特論 心理療法特論 教育分野に関する理論と支援の展開 臨床心理実習A 臨床心理実習B 社会心理学特論 社会倫理学特論 障害児(者)援助特論 福祉分野に関する理論と支援の展開 投映法特論 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 心の健康教育に関する理論と実践 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 心理実践実習III 心理実践実習IV

修士論文又は特定課題の研究結果の提出

修了(学位取得)

大学院 臨床心理学領域は公認心理師法に定められた公認心理師養成カリキュラムを設置し、かつ、臨床心理士第1種指定大学院に指定されています

大学院地域文化研究科人間福祉専攻臨床心理学領域は、公認心理師法に定められた公認心理師養成カリキュラムを設置するとともに、公益財団法人・日本臨床心理士資格認定協会の実施する「臨床心理士」の資格試験に関する受験資格を有する大学院(1種)として指定されています。本領域において、それぞれの資格に必要な科目を修得すると、公認心理師国家試験の受験資格および臨床心理士試験の受験資格が得られ、どちらも修了した年に受験することができます。

「公認心理師」は保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、心理に関する支援を要する者および関係者の理解、心理に関する相談及び助言、指導その他の援助、心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を、行うことを業とする者をいいます。「臨床心理士」は臨床心理学を学問的基盤に、心の問題の援助・解決・研究に貢献する専門家として認定する資格です。

なお、公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、公認心理師に対応したカリキュラムを持つ大学において公認心理師法に定められた25科目を修得し卒業する必要があります。2022年までの特例期間は、出身大学で履修した科目を上記25科目に読み替えることが可能とされています。科目の読み替えについては出身大学にお問い合わせください。

院生からのメッセージ



人間福祉専攻
社会福祉学領域
嘉手納 泉也
かてな もとや

私は医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)として働いています。救急救命から社会復帰までの医療現場において、これまで地域住民等の支援に自己研鑽のなかで邁進してきましたが、コロナ禍で改めて専門的自分を問う必要性を感じました。そこで出身大学であり、社会福祉学の他分野の先生方に恵まれ、夜間の授業も多く、仕事と学業の両立ができる本学への進学を決意しました。

授業は対面とオンラインの両方を経験しました。明るい教授や頼もしいクラスメートとの対話は心理的距離が近く、楽しくて刺激的な日々を送っています。子ども家庭支援、障害学、老年学など幅広い視点で社会福祉学の原理やソーシャルワーク理論を丁寧に学ぶことができるうえ、専門的知識を深く掘り下げる貴重な時間になっています。さらに、図書館は蔵書量が豊富で、求めている先行研究や文献を見つけたときには「素敵な出会い」とも言うべき瞬間があり、心が躍ります。

満足のいく大学院生活は、実践の振り返りと高度な専門的職業人としての自己成長をも経験し、自信につながるものでした。修了後も大学院で学んだ研究の視点を活かし、多様性のある地域社会のなかで適切な支援を続けていきます。



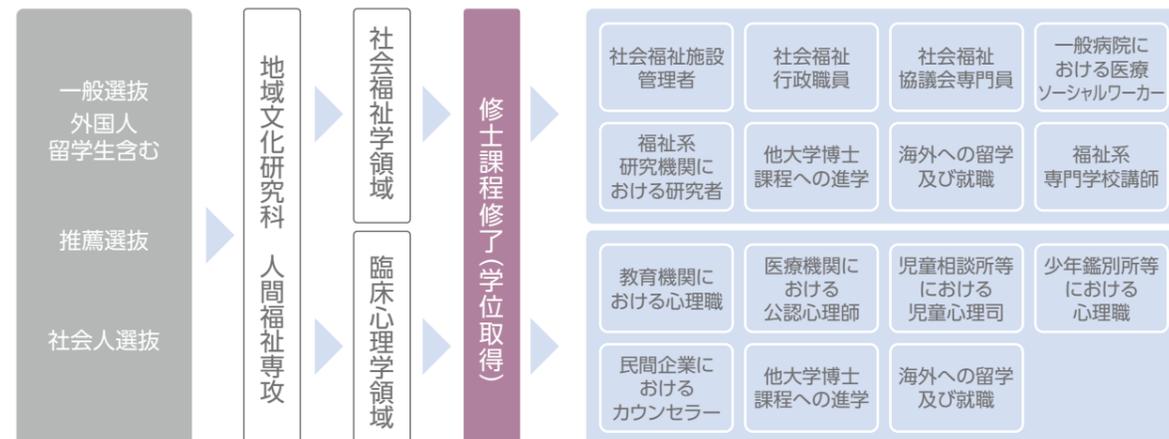
人間福祉専攻
臨床心理学領域
上里 琉偉
うえぎと るい

私は、高校生のときに心理学に興味を持ち、心理面からの対人支援を学ぶため沖縄国際大学に進学しました。大学4年間は、心理学に関する基礎的な知識を身に付けてながら塾講師のアルバイトをし、心理的な問題を抱え不登校になっている児童・生徒と関わりました。その経験から「より専門的な知識や技術を身に付けたい」という思いで大学院への進学を希望しました。

本大学院では、公認心理師及び臨床心理士の受験資格を得ることができるカリキュラムが組まれています。様々な分野で活躍なさっている先生方や共に心理職を志す同期とのディスカッションを行う機会が多いため、より実践的な知識を身に付けていく事ができます。また本大学院は、学内・学外実習に特に重きを置いており、複数の領域での実習経験を通じて多分野で活躍できる人材を育成しています。実際に地域社会の人々の悩みに触れ、その軽減の一助となる経験をする事で心理職としてのやりがいと、臨床的な感覚を育む事ができる所が本大学院の良さだと実感しています。

修了後は大学・大学院で学んだ経験を活かし、人々の気持ちに寄り添いながら、地域社会に貢献できるような専門家になる事を目指します。

修了後の進路



2021(令和3)年度
修了生修士論文
テーマ一覧

- 難聴と認知機能とうつ傾向の関連性について —日系アメリカ人高齢者の調査より—
- ネグレクト家庭の児童に対する支援のあり方 —養護教諭を対象とした校内・関係機関との連携プロセスを探るインタビュー調査から—
- 男女青年の体型と健康に関する意識の検討
- 思春期にがんを発症した患者の心理的変容のプロセスに関する検討
- 大学生の居場所の検討 —居場所感、居場所環境、自我同一性の視点から—
- 不適応的な自己抑制を行う者の動機と自己への評価が派生的感情および内的適応に及ぼす影響について

人間福祉専攻 専任教員紹介

岩田 直子 教授

いわた なおこ

専門分野 社会福祉学、障害学、島嶼研究

担当科目 地域共生社会特論、人間福祉特殊研究ⅠD・IID

主な著書・論文

・『**ダイバーシティ社会に向けて～ろう者の手話言語獲得の歩みから考える～**』
冲国大うまんちゅ講座 共著/編集工房東洋企画/2021年

・『**障害者福祉論 第3章4節**』 共著/中央法規出版社/2021年

・**島嶼地域の障害者の地域生活の特徴 ～パラオと沖縄を比較しながら～**
地域研究シリーズNo.43 旧南洋群島調査報告書
(論文)単著/沖縄国際大学南島文化研究所/2016年

・**障害者の社会的孤立**
社会的孤立問題への挑戦:分析の視座と福祉実践
共著/法律文化社/2013年

・**自立生活の多様性を求めて～沖縄県宮古島市を事例にして～**
共生の障害学～排除と隔離を超えて～
共著/明石書店/2012年

上田 幸彦 教授

うえだ ゆきひこ

専門分野 臨床心理学、リハビリテーション心理学、高次脳機能障害、認知行動療法

担当科目 臨床心理学特殊研究ⅠA・IIa、臨床心理面接特論、心理的アセスメントに関する理論と実践、保健医療分野に関する理論と支援の展開、心理実践実習

主な著書・論文

・**Profile of cognitive function in adults with duchenne muscular dystrophy**
Brain & Development,39 (論文)共著/The Japanese Society of Chaild Neurology/2017年

・**心理社会的行動障害を持つ高次脳機能障害者への認知行動療法**
行動療法研究,43(1) (論文)単著/日本認知・行動療法学会/2017年

・**筋ジストロフィーの心理支援**
医療,71(10) (論文)単著/国立医療学会/2017年

・**Differential outcomes of skill training, group counseling, and individual cognitive therapy for persons with acquired visual impairment**
Japanese Psychological Research,Vol.55
(論文)共著/The Japanese Psychological Assotiation/2013年

小柳 正弘 教授

こやなぎ まさひろ

専門分野 障害と支援、ケアとアート、社会哲学、倫理学

担当科目 障害と支援・ケア特論Ⅰ・II、人間福祉特論、社会福祉研究法特論II 人間福祉特殊研究ⅠC・IIC

主な著書・論文

・**障害の社会モデルとケアー社会的自我論の観点から**
先端倫理研究 第15号 (論文)単著/熊本大学文学部倫理学研究室/2021年

・『**「支援」における「現場の理念」の探索・構築にむけて**
～障害児支援の現場における質的調査の一例を素材に～』
沖縄国際大学総合学術研究紀要 20-2 (研究ノート)共著/沖縄国際大学総合学術学会/2018年

・**自己決定の倫理と「私-たち」の自由**
単著/ナカニシヤ出版/2009年

・**自己決定論のゆくえー哲学・法学・医学の現場から**
共著/九州大学出版会/2008年

・**G.H.ミードの世界ーミード研究の最前線**
共著/恒星社厚生閣/1997年

※共著者・編著者名・編集(監修)団体名・収録ページは編集の都合上省略しております。

知名 孝 教授

ちな たかし

専門分野 精神保健福祉

担当科目 障害児者援助特論

主な著書・論文

・**"Resiliency and Mental Health of School Teachers in Okinawa"**
(論文)共著Journal of Health Research(オンラインジャーナル)2020年3月

・**The First-Year Experience: Mental Health of University Students in Okinawa, Germany, and Thailand**
南島文化 第42号 (論文)共著/沖縄国際大学南島文化研究所/2019年

・**Mental Health and Well-Being of University Students in Okinawa**
Hindawi Education Research International Volume 2018(オンライン・ジャーナル)
(論文)共著/Hindawi/2018年

・**特別支援学級急増の背景と課題**
共育者 15号 単著/沖縄県民間教育研究所/2017年

・**発達障害のある子どもと精神保健福祉士の実践**
精神保健福祉:日本精神保健福祉士協会誌 47(2) 単著/日本精神保健福祉士協会/2016年

Donald Craig Willcox 教授

ドナルド・クレイグ・ウィルコックス

専門分野 老年学、国際保健福祉、公衆衛生学

担当科目 人間福祉特殊研究ⅠE、人間福祉特殊研究ⅡE、福祉老年学特論Ⅰ・II、老年社会科学特論

主な著書・論文

・**Lifespan extension conferred by mitogen-activated protein kinase 5 (MAP3K5) longevity-associated gene variation is confined to at-risk men with a cardiometabolic disease.**
Aging (論文)共著/ Impact Journals /2021年

・**The Cultural Context of Aging:Worldwide Perspectives**
共著/ Praeger /2020年

・**The Okinawa Way**
共著/ Penguin Books/2018年

・**Minimal Shortening of Leukocyte Telomere Length Across Age Groups in a Cross-Sectional Study for Carriers of a Longevity-Associated FOXO3 Allele.**
Gerontol. A Biol.Sci Med.Sci (論文)共著/ Oxford Academic Press /2018年

・**FOXO3 and Exceptional Longevity Insights From Hydra to Humans.**
Curr Top Dev Biol (論文)共著/ Elsevier Press /2018年

比嘉 昌哉 教授

ひが まさちか

専門分野 児童家庭福祉論、スクールソーシャルワーク論

担当科目 人間福祉特殊研究Ⅰ・II、子ども家庭支援特論Ⅰ

主な著書・論文

・**ハワイ州におけるスクールソーシャルワーカーの実践～インタビュー調査を通して～**
地域文化論叢,第19号 (論文)単著/沖縄国際大学大学院地域文化研究科/2020年

・**子どもにとって健康で文化的な最低限度の生活とは**
季刊 セクシュアリティ 沖縄から学ぶ No.75 (論文)単著/エイデル研究所/2016年

・**沖縄県におけるスクールソーシャルワーカーの質的向上を目指したスーパービジョン**
スクールソーシャルワーカーのスーパービジョン・プログラム
(論文)単著/科学研究費研究報告書/2016年

・**効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラムを活用したスーパービジョンー沖縄県の取り組みからー**
すべての子どもたちを包括する支援システム (論文)単著/せせらぎ出版/2016年

・**沖縄県の就学援助制度の現状と課題**
沖縄国際大学人間福祉研究 11(1) (論文)単著/沖縄国際大学人間福祉学会/2015年

樋口 美智子 准教授

ひぐち みちこ

専門分野 保健医療ソーシャルワーク

担当科目 保健医療福祉特論Ⅰ・II、社会福祉実践演習Ⅰ

主な著書・論文

・**医療ソーシャルワーカー(MSW)が地域に出る意義ー病院から地域へ MSWに求められていることー**
地域リハビリテーション 11月号/Vol.14 No.5 (論文)単著/三輪書店/2019年

・**第6章保健医療分野で機能する医療ソーシャルワーカー**
第3節医療ソーシャルワーカーの主な業務 第4項受診・受療援助
MINERVA社会福祉士養成テキストブック⑤保健医療サービス第3版
分担執筆/ミネルヴァ書房/2016年

・**MSWの地域活動ー社会福祉専門職団体との協働ー**
医療ソーシャルワーカーのか-患者と歩む専門職- (論文)単著/医学書院/2012年

・**沖縄県の医療社会事業の実態**
PSWの眼 創刊号 (論文)単著/沖縄県精神医学ソーシャルワーカー協会/1989年

・**沖縄県内の病院における医療社会事業実態調査報告書**
医療と福祉 No.41 Vol.17-No.2 (論文)共著/日本医療社会事業協会/1982年

平山 篤史 准教授

ひらやま あつし

専門分野 臨床心理学

担当科目 臨床心理基礎実習、グループアプローチ特論、臨床心理学特論II 臨床心理面接特論Ⅰ、臨床心理事例検討実習

主な著書・論文

・**学部教育での心理劇の手法を用いたグループアプローチによる他者との関わりの変容**
沖縄国際大学人間福祉研究 第9巻2号 (論文)単著/沖縄国際大学人間福祉学会/2012年

・**感情が爆発し対人関係のトラブルを繰り返すアスペルガー症候群の成人男性との面接**
沖縄国際大学地域文化論叢別冊心理相談室紀要第2巻
(論文)単著/沖縄国際大学地域文化研究科/2007年

・**失語症を伴う長期入院高齢者とのロールプレイを利用した面接過程**
心理臨床学研究23巻6号 (論文)単著/心理臨床学会/2005年

・**ロールプレイ場面のテーマ・役割の認知が演者の体験に及ぼす影響**
心理劇研究28巻2号 (論文)単著/西日本心理劇学会/2005年

・**慢性期統合失調症入院患者に対する対人交流をねらいとしたロールプレイの導入過程**
心理劇研究27巻2号 (論文)単著/西日本心理劇学会/2003年

前堂 志乃 准教授

まえどう しの

専門分野 知覚心理学、認知心理学、認知神経心理学

担当科目 認知心理学特論

主な著書・論文

・**Profile of cognitive function in adults with duchenne muscular dystrophy**
Brain & Development 39 (論文)共著/The Japanese Society of Child Neurology/2017年

・**筋強直性ジストロフィーの認知機能について**
神経内科 85(3) (論文)共著/科学評論社/2016年

・**「感覚であそぼー知覚と錯覚の不思議体験ー**
沖縄国際大学公開講座18なかゆくい講座 元気が出るワークショップ
共著/沖縄国際大学公開講座委員会/2009年

・**大学生のカウンセリングに対するイメージの変化と心理学を学ぶ実感についての研究ー自主的体験学習プログラムとの関連を中心にー**
沖縄国際大学人間福祉研究 第3巻 第1号 (論文)単著/沖縄国際大学人間福祉学会/2005年

・**教職を志望する大学生が提案したいじめの対応策に関する研究ー異なるいじめ場面と異なる立場で提案された対応策ー**
沖縄国際大学人間福祉研究 第1巻 第1号 (論文)単著/沖縄国際大学人間福祉学会/2003年

宮里 新之介 准教授

みやざと しんのすけ

専門分野 臨床心理学、障害児・障害者心理学

担当科目 臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)、臨床心理基礎実習

主な著書・論文

・**児童教育を専攻する短期大学生に対する心理劇を用いたアクティブ・ラーニングの試みー保育時の対応困難場面に焦点を当ててー**
鹿児島女子短期大学紀要第57号 (論文)共著/鹿児島女子短期大学/2020年

・**児童教育を専攻する短期大学生の実習における困難感の調査研究**
鹿児島女子短期大学紀要第52号 (論文)単著/鹿児島女子短期大学/2017年

・**放課後児童クラブにおける指導員の発達障害児対応の困難感に関する調査研究**
鹿児島女子短期大学紀要第50号 (論文)単著/鹿児島女子短期大学/2015年

・**多動性・衝動性の高い高機能広汎性発達障害児へのグループセラピーー他児および活動に対する注目と相互交流の促進を目的としてー**
九州大学総合臨床心理研究第1巻
(論文)単著/九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター/2010年

・**重度アルツハイマー型認知症高齢者に対する情動制御不全の改善に向けた動作法の適用**
リハビリテーション心理学研究第37巻1号 (論文)単著/日本リハビリテーション心理学会/2010年



Graduate
School
of
Regional Business
and Economics

大学院 地域産業 研究科

地域産業
専攻

理念・目的

地域産業研究科地域産業専攻は、経済学及び商学の分野で斬新な環境を創造しうる企業者精神を磨くという理念を具体化するため、1998(平成10)年に開設されました。具体的には、地域社会で活躍しうる企業者、研究者や教育者などを養成するために、人材育成機能と研究機能を併せ持つ一つの拠点を形成し、①自らの専門性と複合知識を実社会において体現し地域産業振興の原動力となり得る高度の専門的職業人の養成と併せて②経済学・経営学・マーケティング・会計学・情報等の分野の有機的連携に基づく研究活動の一層の促進を設置の目的としています。従って、本研究科では、学際的なカリキュラムを通して、企業・行政等の実務現場でスペシャリストとしての役割を担える人材などを養成することを主たる教育研究の目標としています。



地域産業研究科
研究科長
兪 炳強
Heikyo Yu

グローバル化時代に活躍できる人材育成

1990年代以降、経済のグローバル化が急速に進展し、多くの国や地域の経済発展を牽引してきました。しかし、2020年初頭に始まった新型コロナウイルスのパンデミックにより、世界的に社会や経済が深刻な問題に直面し、とりわけ観光業に大きな損失をもっています。一方、ICT(情報通信技術)の進展が世界をめぐる経済環境に大きな革新をもたらし、越境データの利用に関わるルールづくりなど重要な課題はありますが、今後様々なビジネスイノベーションが期待されています。ところで、沖縄に目を向けますと、1972年に本土への復帰以降、道路や港湾など社会資本の整備・充実に伴い、観光産業が基幹産業に大きく発展し、2019年には入域観光客数が一千万人の大台を突破しました。しかし、先述した新型コロナウイルスの感染拡大により、入域観光客数が激減し、観光業に依存する地域経済の諸課題が顕在化しました。今後、沖縄の持続的な発展を図るには、観光産業をめぐる諸課題のほか、製造業が脆弱な問題、所得格差の問題、雇用ミスマッチの問題、財政依存の問題、基地問題、子ども貧困の問題など様々な社会経済的問題への対応策が求められています。

地域産業研究科では、地域産業・経済発展の原動力となる高度な専門知識をもつ人材育成を目指しています。そのため、教育研究分野は、経営領域・産業情報領域・経済領域・沖縄環境経済領域にわたり、経済学、経営学、マーケティング、会計学、情報、環境に関する科目が開設されています。また幅広い専門的知識を修得できるように、主専攻と副専攻が設置されています。本研究科は創設以来すでに二十年余りを立ちました。その間、現在すでに活躍している大学教員、公務員、研究員、税理士や中小企業診断士など多くの卒業生を輩出しました。皆さんがこれからの大学院地域産業研究科での研究活動において、各自の専門分野に関するより高度な問題発見力・分析力を高め、地域産業・経済における諸課題に対処できる高度な専門知識をもつ人材に成長することを心から祈願しています。

地域産業研究科がめざすもの

高度な専門的職業人の養成

本研究科では、今日の高度に情報化されたグローバル経済下で、商業、経済、経営、会計および情報といった各専門分野からの学際的な分析能力の育成を目指しており、その結果として皆様が将来、企業経営者や研究員、教員、公務員、税理士、中小企業診断士あるいは公認会計士など地域社会のスペシャリストとして、中核的な役割を担える専門的職業人の育成を目指します。



国際化への対応

今日の高度に情報化されたグローバル経済は混沌としてきており、もはや、地域社会のみで経済は語れなくなり、そこでは新たな経済理論が求められていると同時に、学際的な視野をもった企業者も必要とされています。とりわけ、沖縄県は島嶼地域なのであり、天然資源の乏しいなか、有能な企業者の育成が重要視され、日頃から自己の環境を最善なものへと作り替えていける判断能力を有する企業者の存在が地域経済発展のカギを握っています。そのような状況の中で本県は、その地理的条件や気候的・風土的特性から、主にアジア諸国との経済交流の基点として最適な場所と考えられ、そこでは高度な教育・研究を行う大学院もその中核的役割を果たすことが期待されています。

地域の地域産業研究科へのニーズ

現代資本主義経済における産業革命後の経済発展の中心地はイギリスからアメリカ、さらに今日では東アジアに移転してきています。その一つの要因として考えられるのは、絶えず発展途上の立場からキャッチアップする企業者精神の存在があり、そこでは常に有能なイノベーターとしての企業者の役割が不可欠であったことです。つまり、地域経済の発展には企業者としての人材育成が極めて重要であり、とりわけ、県内企業は多くが中小零細企業なので、脆弱な存立基盤を支えるためにも有能な企業者の存在が不可欠です。また、情報化や国際化など、企業を取り巻く環境の大きな変化に対処するためにも、経済学・経営学・マーケティング・会計学・情報等の専門知識を有し、広い視野を持って組織やプロジェクトの管理運営が行え、また、企画能力等に優れた企業者に対するニーズは今後ますます高まるものと考えられています。





地域産業専攻は、経済・経営・商学・会計・情報・環境などの学術分野の有機的な連携の下に、各領域の専門性の深化と併せて創造的な思考能力を涵養することを意図しております。

とりわけ、沖縄県は島嶼地域であり、天然資源の乏しいなかでは、有能な企業者としてのクリエイティブな能力、つまり自分の皮膚で感じ、自分の頭で考え、方向づける能力および、自ら情報を発信する能力を涵養することが大切であり、このための機会を提供することが、この専攻の役割だと考えております。

具体的には企業、行政および教育などの実務現場での実践的な課題に迅速に対処しうる能力、つまり自らの専門性と総合的な知識を実社会において応用し、地域経済発展の原動力となり得る高度の企業者活動を促進することを目指します。

沖縄国際大学大学院

地域産業専攻 3つのポリシー

●ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

1. 所定の年限在学し、研究指導を受け、本研究科の目的に沿って設定した科目を履修して、所定の単位を修得し、かつ修士論文または特定課題研究を提出して、所定の試験に合格することが課程修了の要件です。
2. 地域産業に関する専門的・複合的な学識を備え、専攻領域における研究能力及び知識、高度な職業人としての優れた能力及び知識を身につけているかどうか、課程修了の目安となります。

●カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

地域産業の振興を促進する上で直面する様々な課題に実践的に対処でき、国際的にも活躍できる人材を育成するために、次のような方針に沿ってカリキュラムを作成しています。

1. 広範な講義科目群より専門知識を習得すると共に複合知識を実社会において体現できる能力を身につける。
2. 研究指導分野に関わる指導教員群との相互討論によって自らの問題意識を明確にし、個別課題に取り組む。
3. 修士論文または特定課題研究を完成し、自己の研究を専門分野の中に位置づけ、研究の成果と意義について客観的に把握する能力を身につける。

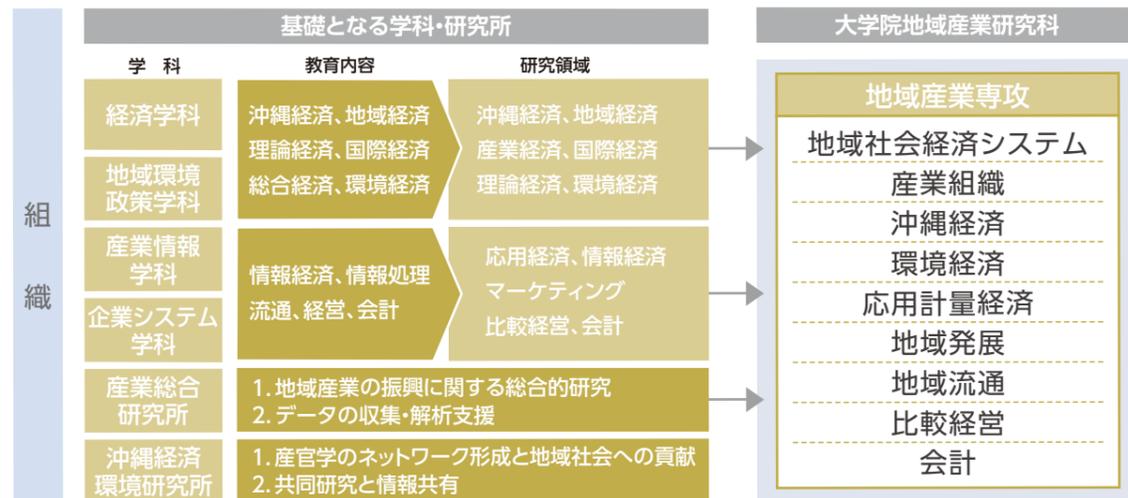
●アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

地域産業研究科は、経済、経営、マーケティング、会計、情報、環境などの学術分野の有機的な連携の下に、各領域の専門性の深化と併せて広い視野に立った思考能力を有する専門的職業人を養成することを目的としています。そのため、以下のような人物を受け入れます。

1. 各専攻領域に関する知識及び専門的な素養を有する人物。
2. 企業、行政および教育などの実務現場で将来、地域社会、国際社会の発展に寄与できる豊かな素養と能力・意欲を備えた人物。

基礎となる学科・研究所

地域産業研究科は、経済学部(経済学科、地域環境政策学科)と産業情報学部(企業システム学科、産業情報学科)を基礎として設置されています。また産業総合研究所と沖縄経済環境研究所は、本研究科を支える重要な関連機関です。各学部の卒業生は学際的に統合されたすべての領域に入学することができます。



※カリキュラムについては予告なしに変更される場合があります。ご了承下さい。

地域産業セミナー(1年次必修科目)

地域産業セミナーは、専門性と複合的知識を実社会において体現し、地域産業振興の原動力となる高度の専門的職業人の養成と、経済学・経営学・商学・会計学・情報等の分野の有機的連携に基づく研究活動の促進を目的としています。講義は経済学系と商学系の内容を加味した学際的な科目をオムニバス方式で行います。

まず、修士課程における学習・研究の進め方の基本を学び、次に経済学系、商学系の幅広い知識を学ぶことにより、専門領域における学習をより深化させることができます。また、1年次の必修科目として設定しており、学生が相互に啓発し、学習、研究を深めていくことをねらいとしています。

教育課程の構成

教育課程は大別して、地域社会経済システム、産業組織、沖縄経済、環境経済、応用計量経済、地域発展、地域流通、比較経営、会計の専門科目域から構成されています。

地域社会経済システム	今日のわが国の社会経済システムには大転換が必要です。当領域では、地域分権・地域主権・地域自立の視点から地域社会をトータルシステムとして捉え、地域社会経済システムの構築について究明することを目的としています。
産業組織	産業組織領域は、産業組織を理論的・実証的・政策的に研究することを中心としており、社会経済システムの変化と産業組織の動向に関する洞察・応用能力を付与し、深化させることを目的としています。
沖縄経済	沖縄経済領域は、日本の中できわめて特異な歴史をもち、社会経済構造が異なっている沖縄経済を、理論的・実証的に研究することを中心としており、その取り組みを通して、経済学的な分析手法を学び、経済学的な思考能力を身につけることを目的としています。
環境経済	環境経済領域は、環境と経済の緊張関係、つまり、どちらかを優先すると犠牲を伴うトレードオフ(Trade-Off)関係が生じるが、これを和らげる持続可能な経済発展について探究することを目的とします。そのために、環境の経済的価値の評価及びその手法、基礎的理論、調査などを通して学んでいきます。
応用計量経済	応用計量経済領域は、各種統計解析手法や計量経済学的手法を用いた経済・社会情報の分析と実社会への応用について研究することを中心としており、実務現場で求められる、合理的な情報の解析と意思決定根拠の提示能力(情報分析能力)を付与し、深化させることを目的としています。
地域発展	「地域」とは社会の事象、現象の同質または等質を囲んだエリアであり、その分析対象は地元沖縄に止まらず、アジアさらに世界にまで広がります。地域発展領域は地域の視点から、社会・経済の動向を科学的に分析し、その法則性を捉え、洞察・応用能力を深化させることを目的としています。
地域流通	地域流通領域は、観光ビジネス、エリアマーケティング、地域ブランディング、地域消費者行動などについて実証的に研究することを中心としており、地域的及び国際的視点から、地域市場を分析するための知識・分析能力を習得し、深化させることを目的としています。
比較経営	比較経営領域は、経済のグローバル化にともなう各国の企業経営の特質を比較分析することによって、日本企業の経営戦略の特質や方向性を明らかにすることを中心としており、とりわけ人的資源の有効活用という視点から経営管理に関する理論的分析や洞察能力を付与し、企業者精神を深化させることを目的としています。
会計	会計領域は、税法(法人税法)と会計(財務会計)との関わりを研究する分野です。特に、課税所得と企業利益との関わりにおける税務会計の基本問題とその役割及び課題について論究します。さらに、税理士試験科目免除としての会計科目(簿記論、財務諸表論)と関連させた指導も行います。
学際的なカリキュラムの設置	履修方法に関しても、他の大学院や研究科との単位互換などを設けることにより、大学院学生個々のニーズに合致し実務応用能力に富んだ学際的な専門性の深化が図られるよう配慮しています。



専攻内容

研究科	専攻	募集領域	領域	領域必修科目
地域産業研究科	地域産業専攻	経済	地域社会経済システム	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会経済システム特殊研究 I 地域社会経済システム特殊研究 II 地域社会経済システム特論
			産業組織	<ul style="list-style-type: none"> 産業組織特殊研究 I 産業組織特殊研究 II 産業組織特論
		沖縄・環境経済	沖縄経済	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄経済特殊研究 I 沖縄経済特殊研究 II 沖縄経済特論
			環境経済	<ul style="list-style-type: none"> 環境経済特殊研究 I 環境経済特殊研究 II 環境経済特論
		経営	地域流通	<ul style="list-style-type: none"> マーケティング特殊研究 I マーケティング特殊研究 II マーケティング・マネジメント特論
			比較経営	<ul style="list-style-type: none"> 比較経営特殊研究 I 比較経営特殊研究 II 比較経営特論
			会計	<ul style="list-style-type: none"> 税務会計特殊研究 I 税務会計特殊研究 II 税務会計特論
		産業情報	応用計量経済	<ul style="list-style-type: none"> 経済情報統計解析特殊研究 I 経済情報統計解析特殊研究 II 経済情報統計解析特論A
			地域発展	<ul style="list-style-type: none"> 地域発展特殊研究 I 地域発展特殊研究 II 地域発展特論
				全領域共通

修士論文又は特定課題の研究成果の提出

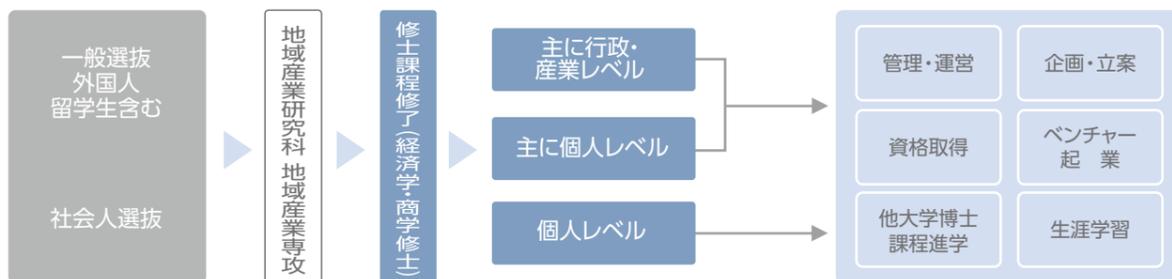
学位取得（経済学または商学修士）

- 専門深化を支援する開設科目群
- 経済情報統計解析特論B
 - 応用マクロ経済学特論
 - 地域経済計量分析特論
 - 地方財政特論
 - 地域資源経済特論
 - 租税特論
 - 財務会計特論
 - 地域小売業特論
 - 地域経済政策特論
 - 商学特論
 - 情報資源管理特論
 - 観光情報処理特論
 - 意思決定特論
 - 人的資源管理特論

- 複合的に知識を広げるための特別開設科目群
- 経済学特論
 - ビジネス特論
 - 数理経済情報特論
 - インターネット・マーケティング特論
 - マーケティング・コミュニケーション特論

※カリキュラムにつきましては予告なしに変更される場合があります。ご了承下さい。

修了後の進路



院生からのメッセージ



地域産業専攻
地域流通領域
張 中弛
ちよう ちゅうち

私は沖縄に来る前は、中国の湖北科技学院で、マルチメディアや映画学など、芸術関連の科目をメインに学習したほか、自分の領域を広げるために経営学に関する科目も履修しました。以前から沖縄の経済に関心がありましたので、大学卒業後に来日し、本学の地域産業研究科に進学しました。現在、修士課程1年次には5名の大学院生が在籍しています。少人数授業への参加を通じて、日本人と留学生と一緒に交流しながら地域産業の発展のあり方について研究しています。

沖縄国際大学は、沖縄の伝統文化と自然を大切に、人類の平和と共生を支える学術文化を創造する大学です。青い空と海、白い砂浜、照りつける常夏の太陽、南国独特の食べ物があり、留学生の学習や生活を支援する団体もあります。また、研究を支援する奨学金制度もありますので、充実した学生生活を送ることができます。研究環境については、大学院生専用の自習室や資料室があり、日々の研究や修士論文の執筆に専念できる環境が整っています。

私は本学大学院修了後に母国に戻り、大学の教員になりたいと考えています。研究者として、沖縄と中国の発展に貢献できる人材になることが私の目標です。



地域産業専攻
応用計量経済領域
奥座 隆徳
よざ たかのり

大学在籍時より本大学院に関心を持っておりましたが、所属していた学部は就職志望が大半で、私も卒業後、県内の企業グループに入社し財務や経営企画の担当として勤めてきました。大学時代の学びは非常に役立っておりますが、実際に働いてみると、知識不足を痛感し勉強の重要さや難しさを改めて実感しました。特に、新規事業等の策定を行う現部署では、ビジネスの総合的な能力に加え、専門的な知識を有する人員が集まっており、私もスキルアップが必要だと強く感じました。卒業し長く経ちますが、20代までは様々な情報をインプットし、将来に活かせるスキルを見定め磨きたいと明確に思うようになりました。そのような中、当時の担当教授から本大学院進学を頂いた事や、働きながら通学できる目途がついた事で入学を決意しました。

本大学院は授業や研究での学びは勿論、先生方と密に意見交換でき、また、様々な経歴の学生同士でコミュニケーションがとれます。環境や制度も整っており、学習の意欲と機会が自然に増え、成長に繋がる場所だと感じます。本大学院で学んだ事を、自分自身の将来のために、加えて、地域経済の発展に少しでも貢献できればと考えております。

2021(令和3)年度
修了生修士論文
テーマ一覧

- 貧困の要因分析から見た沖縄経済の特性に関する研究
- 購買意思決定に影響を与える感情マーケティング
—カスタマージャーニー5Aによる消費者行動プロセスの感情分析—
- パーソナルデータの経済価値分析
—SNSアプリから見る価値評価要因—

地域産業専攻 専任教員紹介

岩橋 建治 教授

いわはし けんじ

専門分野	人的資源管理論、経営組織論
担当科目	人的資源管理特論
主な著書・論文	
・ 沖縄県における主要業種の変遷 <i>産業情報論集</i> 17(1) 7-22 （論文）単著/沖縄国際大学産業情報学部/2020年	
・ 沖縄県内主要企業の盛衰 <i>産業と情報の科学</i> （論文）単著/東洋企画/2020年	
・ 現代企業の経営戦略 <i>企業と社会が見える経営学概論</i> （論文）単著/大月書店/2019年	

鵜池 幸雄 教授

ういけ ゆきお

専門分野	財務会計論、資金会計論
担当科目	財務会計特論
主な著書・論文	
・ 現代の取引認識における簿記の役割-利益認識との関わりを中心として （論文）単著/日本簿記学会年報/2014年	
・ 農業発展に向けた簿記の役割－農業者のモデル別分析と提言－ 共著/中央経済社/2014年	
・ 包括利益計算と企業業績表示の一考察 <i>沖縄国際大学産業総合研究第19号</i> （論文）単著/沖縄国際大学産業総合研究所/2011年	

上江洲 薫 教授

うえず かおる

専門分野	観光地理学、観光地振興論
担当科目	地域資源経済特論
主な著書・論文	
・ 沖縄県石垣島における環境協力金の認知度と環境目的税の導入意識 <i>沖縄地理</i> 第18号 （論文）単著/沖縄地理学会/2018年	
・ 宮古島市における観光の環境化－環境保全とカーボン・オフセットの取り組み <i>沖縄宮古の挑戦 エコアイランドによる地域活性化</i> 共著/文進印刷/2016年	
・ 沖縄県内の大規模ホテルにおける廃棄物削減の取り組みと食品リサイクル <i>経済論集</i> 第9巻第1号 （論文）単著/沖縄国際大学/2015年	

呉 錫畢 教授

オ・ソクピル

専門分野	環境経済学、厚生経済学
担当科目	環境経済特殊研究Ⅰ・Ⅱ、環境経済特論
主な著書・論文	
・ 韓国始華湖干潟の干拓事業と環境的葛藤の改善に関する一考察 <i>南島文化研究所第42号</i> （論文）単著/沖縄国際大学/2020	
・ 干潟における環境・経済と地域発展 <i>変わる沖縄－地域環境政策学の視点から－</i> （論文）単著/沖縄国際大学公開講座委員会/2019	
・ 国立諫早湾干拓事業と地域発展に関する一考察 <i>経済論集</i> 第10巻第2号 （論文）単著/沖縄国際大学/2018年	

鹿毛 理恵 准教授

かげ りえ

専門分野	アジア経済論、国際経済学、国際労働移動論
担当科目	地域経済政策特論
主な著書・論文	
・ 現代スリランカの家族の変容とジェンダー-障害者家族のケアの例から <i>変容するアジアの家族</i> 共著/明石書店/2022	
・ 沖縄経済と観光 <i>沖縄経済入門(第2版)</i> 単著/東洋企画/2020	
・ 日本における外国人介護人材受け入れの現状と課題 一経済連携協定によるインドネシア介護福祉士候補者の受け入れの事例を中心にして <i>アジア女性研究</i> 第27号 単著/ <i>アジア女性交流・研究フォーラム</i> /2018	

※共著者・編著者名・編集(監修)団体名・収録ページは編集の都合上省略しております。

友知 政樹 教授

ともち まさき

専門分野	数理行動科学、ゲーム理論、社会ネットワーク分析、琉球独立論
担当科目	経済情報統計解析特論B
主な著書・論文	
・ A mathematical model for COVID-19 pandemic -SIR model: Effects of asymptomatic individuals <i>Journal of General and Family Medicine, Volume 22</i> （論文）共著/2021年	
・ 沖縄から全ての「基地」と「補助金」が無くなったら沖縄経済はどうなるのか？ <i>変わる沖縄：地域環境政策学の視点から</i> （論文）単著/沖縄国際大学公開講座委員会/2019年	
・ 全基地撤去及び全補助金撤廃後の琉球(沖縄)経済に関する一考察 <i>琉球独立学研究</i> 第3号 （論文）単著/琉球民族独立総合研究会/2016年	

仲地 健 教授

なかち けん

専門分野	財政学
担当科目	租税特論
主な著書・論文	
・ 竹富島における入島税導入の可能性について <i>『産業情報論集』第18巻第1号</i> （論文）単著/沖縄国際大学産業情報学部/2021年	
・ 沖縄振興特別措置法における高率補助に関する一考察 <i>『地方自治研究』Vol.35.No2.</i> （論文）単著/日本地方自治研究学会/2020年	
・ 医療ツーリズムと沖縄観光 <i>『産業総合研究』第27号</i> （論文）単著/沖縄国際大学産業総合研究所/2019年	

中野 謙 教授

なかの けん

専門分野	農業・食料経済、地域経済
担当科目	地域発展特論
主な著書・論文	
・ 食肉ビジネス－国内鶏肉産業におけるアグリビジネスの新展開－ <i>アグリビジネスと現代社会</i> （論文）単著/筑波書房/2021年	
・ 子ども食堂の現状と課題－沖縄県OKM子ども食堂の事例より－ <i>『立命館食科学研究』Vol. 3</i> （論文）単著/立命館大学食マネジメント学会・立命館大学経済学会/2021年	
・ シャンパン生産における醸造業者の関連とブランド維持のしくみに関する考察 －ジャンゾン・パラドンの事例より－ <i>『産業総合研究』第28号</i> （論文）単著/沖縄国際大学総合研究機構産業総合研究所/2020年	

原田 優也 教授

はらだ ゆうや

専門分野	観光マーケティング、観光行動分析、アジア消費者行動、コンテナビジネス
担当科目	マーケティング特殊研究Ⅰ・Ⅱ、マーケティング・マネジメント特論
主な著書・論文	
・ 新型コロナウイルス(COVID-19)におけるパニック購買行動の概念分析 <i>地域産業論叢</i> 第16集 （論文）単著/2021年	
・ タイの近代的小売業の発展におけるセブンイレブンのビジネス展開 <i>産業と情報の科学</i> （論文）単著/東洋企画/2020年	
・ 私的空間におけるタイ新中間層の娯楽コンテンツ・シェアリング行動分析 <i>産業情報論集</i> 第14巻 第1&2合併号（論文）単著/2018年	

比嘉 一仁 准教授

ひが かずひと

専門分野	応用計量経済学、労働経済学、家計の消費行動、幸福度、人口移動、格差等
担当科目	地域経済計量分析特論
主な著書・論文	
・ Migration and human capital: Evidence from japan <i>Journal of the Japanese and International Economies</i> （論文）共著/2019	
・ Employment Adjustments of Regular and Non-Regular Workers to Exogenous Shocks: Evidence from Exchange-Rate Fluctuation <i>Industrial and Labor Relations Review</i> （論文）共著/2019	
・ Well-being through the Lens of the Internet <i>PLOS ONE</i> （論文）共著/2019	

比嘉 正茂 教授

ひが まさしげ

専門分野	公共経済学、地域発展論、経済政策
担当科目	応用マクロ経済学特論
主な著書・論文	
・ 沖縄振興予算に関わる国直轄事業の時系列的考察 <i>地方自治研究</i> Vol.33, No.2 （論文）単著/日本地方自治研究学会/2018年	
・ 沖縄振興予算の時系列的考察 －国庫支出金の類似県比較を中心に－ <i>地方自治研究</i> , Vol.31, No.2 （論文）単著/日本地方自治研究学会/2016年	
・ 内閣府沖縄担当部局予算 － 沖縄振興予算 － <i>国と沖縄県の財政関係(池宮城秀正編)</i> （論文）単著/清文社/2016年	

前泊 博盛 教授

まえとまり ひろもり

専門分野	沖縄経済、島嶼経済、基地経済、沖縄経済史、日米地位協定、日米安保
担当科目	沖縄経済特論、沖縄経済特殊研究Ⅰ・Ⅱ
主な著書・論文	
・ 沖縄経済と米軍基地 ～基地経済と政府の沖縄振興の検証～ <i>変わる沖縄～地域環境政策学の視点から～</i> 編著/編集工房東洋企画/2019年	
・ 「主権」侵害する日米地位協定～沖縄県「欧州調査」が暴いた日本政府の「嘘」、 <i>『世界』8月号</i> 単著/岩波書店/2019年	
・ 離島架橋の経済学～宮古島の地域振興と離島架橋効果の検証～ <i>宮古の挑戦～エコアイランドによる地域活性化</i> 単著/沖縄経済環境研究所/2016年	

前村 昌健 教授

まえむら しょうけん

専門分野	地方財政論 財政学
担当科目	地方財政特論
主な著書・論文	
・ 渦状縮小型地域からの脱却と財政 <i>明治大学政経論叢</i> 第87巻第3・4号 2019年	
・ 歳出構造、地方債 <i>国と沖縄県の財政関係</i> 共著/清文社/2015年	
・ 行政の情報化と電子政府 <i>沖縄の観光・環境・情報産業の新展開</i> 共著/泉文堂/2015年	

又吉 光邦 教授

またよし みつくに

専門分野	組合せ最適化、進化計算、伝統染織
担当科目	情報資源管理特論
主な著書・論文	
・ 特選論文(FAIA 2020 & FSDM 2020): The Overview of Genetic Algorithm with Tree Chromosome Structure to Identify Functions, <i>Frontiers in Artificial Intelligence and Applications, Fuzzy Systems and Data Mining VI & The 6th International Conference on Fuzzy Systems and Data Mining</i> （論文）単著/FAIA&FSDM/2020年	
・ Finding and Preserving Traditional Fabrics <i>Published by:Science Impact</i> （論文）共著/Impact/2021年	
・ 琉球王朝時代の与那国島と沖縄島の衣裳の変遷 －台湾原住民の衣裳と装身具との類似性を含めて－ <i>奄美沖縄民間文芸学第18・19合併号</i> （論文）単著／奄美沖縄民間文芸学会／2021	

宮城 和宏 教授

みやぎ かずひろ

専門分野	産業組織論、中小企業論、沖縄経済
担当科目	産業組織特論、産業組織特殊研究Ⅰ・Ⅱ
主な著書・論文	
・ 沖縄経済の実情 <i>国と沖縄県の財政関係</i> （論文）単著/清文社/2016年	
・ 沖縄振興予算と基地経済の誤解 <i>建設政策</i> No.160 （論文）単著/建設政策研究所/2015年	
・ 沖縄の小売業 － サンエーの経済学 － <i>沖縄経済入門</i> 単著・監修/編集工房東洋企画/2014年	

村上 了太 教授

むらかみ りょうた

専門分野	企業形態論、公企業論
担当科目	地域社会経済システム特殊研究Ⅰ・Ⅱ、地域社会経済システム特論、公企業論
主な著書・論文	
・ ポスト株主資本主義の企業経営 <i>比較経営研究</i> 第46号 （論文）単著/日本比較経営学会/2022年	
・ 企業の社会的責任と社会的企業の経済的責任 <i>共同売店の新たなかたちを求めて(沖縄国際大学南島文化研究所叢書)</i> 編著/2020年	
・ 日本専売公社民営化の今日的意義 <i>同志社商学</i> 第69巻第5号 （論文）単著/同志社大学商学会/2018年	

李 相典 准教授

イ サンジョン

専門分野	観光マーケティング、デスティネーション・ブランド・マネジメント、観光客行動
担当科目	観光情報処理特論
主な著書・論文	
・ デスティネーション・ブランド・エクイティの構造モデルにおけるデスティネーション・ブランド・エクスペリエンスの調整効果 <i>日本国際観光学会論文集</i> ,第27巻. （論文）単著/日本国債観光学会/2020年	

The Relationship between Destination Brand Experience and Brand Trust: Difference by Travel Information Search Type <i>Asian Journal of Information and Communications, Vol 11(1)</i> （論文）単著/KISDI/2019
・ デスティネーション・ブランド・エクイティの特徴と研究課題 <i>マーケティング・ジャーナル</i> ,第38巻 第1号（論文）単著/日本マーケティング学会/2018

兪 炳強 教授

ゆ へいきょう

専門分野	地域資源経済論、開発経済論、データ分析
担当科目	経済情報統計解析特論A、経済情報統計解析特殊研究Ⅰ・Ⅱ
主な著書・論文	
・ 沖縄におけるクルーズ船客の観光行動に関する統計的分析 <i>地域産業論叢</i> 第17集 （論文）単著/沖縄国際大学大学院地域産業研究科/2022年	
・ 沖縄における外国人旅行者の満足度とロイヤルティの影響要因に関する計量分析 <i>地域産業論叢</i> 第16集 （論文）単著/沖縄国際大学大学院地域産業研究科/2021年	
・ イタリアにおけるツーリズムとフード産業のグローバル化 <i>産業総合研究</i> 第27号 （論文）単著/沖縄国際大学産業総合研究所/2019年	



Graduate
School
of
Law

大学院 法学研究科

法律学
専攻

理念・目的

現在、政治・経済・社会の多くの分野でグローバル化が進行しています。21世紀の世界の秩序ある発展は、もはや個別国家の努力だけでは達成できません。一方、わが国に限って近未来を展望してみても、多くの分野（国家財政、産業、労働、少子化、年金問題等）で閉塞感が漂っています。

このような状況の下で知的創造組織としての大学（大学院）の果たすべき役割は、ますます重要になっています。法学研究科は、法学の分野からその責任の一端を果たすために、混沌の時代に柔軟かつ機敏に対応し、優れたリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。



法学研究科
研究科長

小西 由浩
Yoshihiro Konishi

法という拠り所

本学13号館にある法廷教室にはテミスあるいはユースティティアと呼ばれる「正義の女神像」が飾られています。片手に天秤（正邪の判断）を持ち、もう片方には剣（実力）を携え、さらに目隠し（平等）をした立ち姿はある種の恐怖を感じさせます。天秤の片方に乗ってしまったが最期、バツサリとやられてしまう。一人合点ですが、最後の手段としての法(ultima ratio legis)という言葉を具象化すれば、このような像になるのだと思います。争いや困りごとがどうにもならなくなったとき、女神が現れ、有無を言わず決着を付けてくれる。有り難いけども怖い。法というものに、こんな印象があることは否めません。

しかしながら、私たちの日常にある法は別の働きを見せてくれます。例えば、お腹を空かせた私がコンビニでパンを買い、それを食べて満足する。どうしてこのような

事が可能なのでしょうか。私が空腹であるという事実、お店にはたくさんのパンがあるという事実、この二つの組み合わせから起こり得ることは無限に考えられます。つまり、世界は自分で体験できる以上の複雑性に満ちており、多くの不確実性を孕むものといえるのです。これを確からしいものにするため、人は貨幣を媒介とする交換や契約といった複雑性を縮減するシステムを作り上げて、そこに秩序をもたらしました。法もそうしたシステムの一つであり、人の行為や相互のコミュニケーションに先立ち、それを意味づけ、どのように振る舞うべきかの指針となるのです。

法学研究科では、より複雑性を増す社会環境のなかで、高度な法的知識と法的思考力を拠り所に自らの途を開いていく志を持った人を迎え、それを習得する機会を提供しようとしております。

法学研究科がめざすもの

即戦力となる法律専門家の養成

激動する現代社会においては、高度でしかも専門的な法に関する知識や知的技能の提供が、社会の各方面から要請されています。本研究科は、本学卒業生、地方公務員、企業で働く民間人に対して、その再教育や研究、免許・資格の取得等の機会を提供し、より高度な法律専門家の養成をめざしています。

インターンシップによる 実務界の体験

本研究科では、インターンシップを導入しています。この就業体験を通して、現実社会の法律に関わる諸問題に接し、法的思考上の対応力等を養うことができます。インターンシップは、院生自身の職業能力の向上および自己理解の促進をはじめ、これまで学んだ知識を確認し、研究すべき課題の所在や方向性を見出すこととなります。また、修了後は即戦力となりうる法律専門家として、社会での大きな活躍が期待できます。

社会に基礎を置く、 社会のための法学教育

沖縄県は、海外に多くの移民を送り出してきたばかりでなく、同じく海外から多くの外国人を受け入れています。これらの人々や一般市民が求めるリーガル・サービスに応じるためには、県内社会に密着した法律に関する国際的な視野をもつ法学教育・研究の推進が必要となります。社会に基礎を置く、社会のための法学教育は、本研究科の沖縄社会に対する一つの使命だといえます。

生涯学習時代における 知的技能の活性化

本研究科は、入学要件さえ整えば、どの年齢からでも入学でき、多様化した市民の学習意欲に応えています。教員の専修免許のほか、税務・会計業務、民事・商事・法務分野における高度の免許・資格を取得したいという要求、また屋間公務員として働く人がより充実した仕事を実現するために必要な科目の専門的知識・技能を修得したいという要求に応えています。

社会のための 行政専門家の育成

沖縄県の将来の発展を考えると、基地問題、雇用問題、島嶼性、県外への経済・財政依存度の高さなど特有の諸問題に対し、法的にそれをどのようにとらえ、かつ対処していくかが問題となります。これらの問題解決のためには、自治体の政策形成能力やその政策立案（立法化）・調整・実行等の諸能力を育成・強化しなければなりません。また、市民生活の向上や県内の産業経済の発展などを推進する場合、そこに生ずる多様で困難な法律問題や行政的課題の解決にその力を発揮し得る行政や法律の専門家が必要となります。

本研究科は、沖縄社会の活性化とその発展に貢献しうる、行政に関する知識や技術を身につけた人材育成もめざしています。



多様な教育法による法の実像への接近

法学研究科においては、前期と後期の Semester 制を採用し、前期末に集中講義期間を設けています。実定法の教育においてはディベート、ケーススタディ、ソクラテスマETHODを採用しています。

地域社会の法的諸問題の研究の支援

沖縄においては、基地問題に直接・間接に起因する法的諸問題のほか、独特の文化、歴史、社会構造のなかで育まれてきた地域の慣習が残存しています。地域社会のマクロからミクロに至るまでの様々な法的諸問題の研究推進のために、法学研究科は、学内研究所と協力しながら、相互の調査、研究、資料の収集・利用の拡大を目指しています。

法政策と法解釈の相互補完的研究の推進

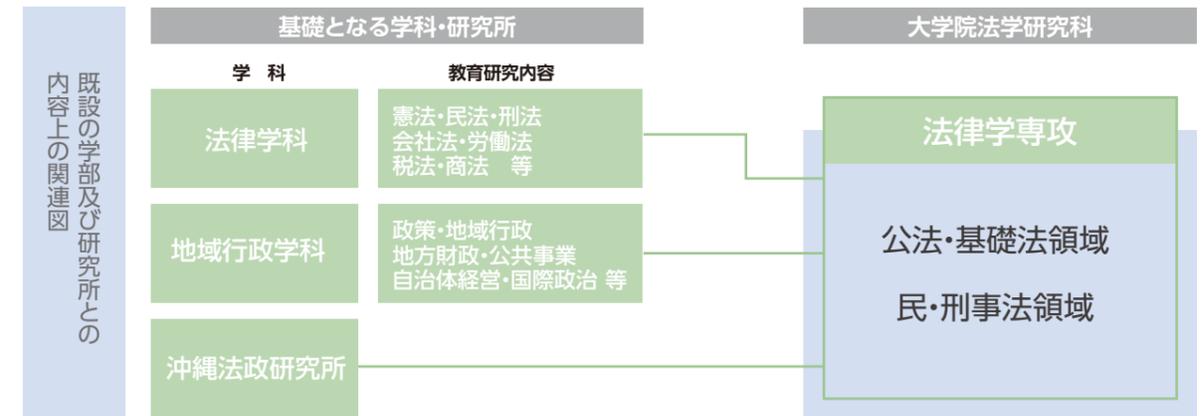
法学研究科においては、法の研究を、教育・研究の便宜上、法政策に関係の深い分野(公法・基礎法領域)と法解釈に関係の深い分野(民・刑事法領域)に大きく二分しています。

実務と研究との有機的結合

法学研究科では、実際の経験(現場教育On the Job Training)こそ最高の教育であるとの理念の下にインターンシップを開講しています。インターンシップにおいて、院生は、受け入れ先職場の責任者の指揮・監督に従い、調査・インタビュー等により収集した事実を基礎にして、実際の事例をどのように法的に解決すべきかについて法的判断を下す経験を積むことができます。

基礎となる学科・研究所

法学研究科は、法学部の法律学科、地域行政学科を基礎として設置されています。また沖縄法政研究所は、本研究科を支える重要な関連施設です。



教育課程の構成

教育課程は大別して公法・基礎法領域、民・刑事法領域の2領域から構成されています。

公法・基礎法領域

公法・基礎法領域は、憲法、行政法、国際法等の実定法および法哲学の基礎法から構成されています。本領域では、国家と国民の関係を規律する公法のあり方について、またこれら実定法の基礎となる法の思想的、歴史的、社会的前提について研究します。

民・刑事法領域

民・刑事法領域は、民法、商法、刑法等の実体法および民事訴訟法、刑事訴訟法の手続法から構成されています。本領域では、現行法を具体的な事例に適用して司法的解決を図るために、法令の解釈についてわが国内外の判例・学説と比較しつつ、体系的に研究します。



沖縄国際大学大学院 法律学専攻 3つのポリシー

●ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

法学研究科は、建学の精神を踏まえて、法学に関する高度で専門的な知識を有する人材を養成することをその教育目的としています。この目的のために、学位授与の方針は以下のようになっています。

1. 法学に関する高度な知識を有し、社会のさまざまな問題に対して法的思考をもって解決する能力を備えていること。
2. 法学に関する研究を自立して遂行することができ、その内容を修士論文として作成することができる研究能力を有していること。
3. 法学に関する高度の専門性が要求される職業に必要な能力を有していること。

●カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

法学研究科は、その教育目的を達成するために、カリキュラムに関しては以下のような特色を持っています。

1. 公法・基礎法領域および民・刑事法領域の2つの領域の中から、自らの関心や将来の進路に応じて多様な法分野に関する特殊研究を選択することを可能とし、きめ細やかな研究指導体制を構築しています。
2. 集中講義を開講し、県外から講師を招聘して、最新の法律問題や理論に触れる機会を設けています。
3. 社会人学生への配慮として、講義科目は主として夜間に開講しています。

●アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

法学研究科では、その教育目的を達成するために、入学者には、大学卒業程度の基礎的学力を持っていることを前提として、特に以下の点について十分な適性をもっていただくことを望みます。

1. 法学に関して深い関心をもち、自ら学び研究する意欲を持っている人物
2. 法学の諸分野において、自らの問題意識から課題を設定して、修士論文を作成する強い意思を持っている人物
3. 法学に関する高度な専門的知識を持つ職業人として、地域社会および国際社会の一員として活動することを希望する人物



専攻内容



修了後の進路



院生からのメッセージ



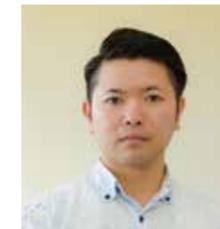
法律学専攻
公法・基礎法領域
山城 和之
やましろう かずゆき

私は現在、税理士法人に勤務しながら税理士資格取得を目指しております。

仕事では、お客様の会計・税務周りの疑問、質問に対し真摯に向き合い、最適な方法をご提案することをモットーに日々奮闘しております。その業務の中で、考えをまとめる際に条文を読むことや専門書を活用し、他の税法との関連性を調べることが多く、場合によっては最高裁判決での判断をもとに回答をする機会があります。そのように日々法律(通達も含む。)に触れる中で、もっと上手に法律を解釈し、業務に活用できたらと思い、本大学院への進学を決意しました。

本大学院の良さは、クラスが少人数制という点にあります。授業では対話を通して自分の考えを共有する機会が多く、どうすれば専門性の高い話題を伝わりやすくなるかを常に意識して発表したり、また教授の熱心な解説やフォロー及びクラスメイトの違った着眼点からの考えを聞くことで、新しい発見につながり、常に成長を感じることが一番の魅力です。

大学院終了後は、本大学院で学んだ法律の解釈の仕方や問題へのアプローチの方法を実務でも活かし、法律を最大限に活用し最善の提案のできる税理士として、社会に貢献していこうと考えております。



法律学専攻
公法・基礎法領域
名嘉真 和己
なかま かずき

私は現在、税理士資格の取得を目指しており、税理士試験の科目免除を受けるため、大学院への進学を決めました。

本専攻の授業は、夜間に行われるため、税理士事務所に勤務している私も、仕事と学業を両立することができています。授業内容については、少人数で行われるため、自分の考えを述べる機会が多いです。相手に伝わるように、工夫して発言ができるということは、大学院の授業だけでなく、仕事でも大きな武器になると感じています。また、本専攻に進学している方は、大半が税理士志望であり、税理士事務所に長年勤務している方も多いため、学業面だけでなく、仕事面についても相談し、アドバイスを頂くことができます。同じ目標に向かう仲間と出会うことができるのも、大学院の大きな魅力だと考えています。私自身、本大学院に進学して本当に良かったと感じています。

大学院修了後は、本学で学んだことを活かし、税法だけの知識だけでなく、他の法律にも知識がある税理士を目指していきたいです。

2021(令和3)年度
修了生修士論文
テーマ一覧

- 差押禁止債権が預金債権に転化した場合の滞納処分による差押えについての一考察
- 競馬の払戻金に係る所得の区分に関する一考察
— 一時所得の非継続要件のうち営利目的該当性の解釈を中心に —
- 相続税法における財産評価と救済方法に関する諸問題について
- 法人税132条適用に係る一考察 ~国際的租税回避事案を題材に~

法律学専攻 専任教員紹介

※共著者・編著者名・編集(監修)団体名・収録ページは編集の都合上省略しております。

上江洲 純子 教授
うえず じゅんこ

専門分野 民事訴訟法・倒産法

担当科目 民事訴訟法特論Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・再生債務者が投資信託の解約金支払債務を受働債権としてする相殺の可否
沖縄法学 第44号 単著/沖縄国際大学法学会/2015年

・再生手続の機関・費用—実証データからみえる手続機関の役割
民事再生法の実証的研究 共著/商事法務/2014年

・再建型倒産手続と整理解雇法理(1)(2)
慶應法学 第26号・第28号 (論文)共著/慶應義塾大学法科大学院/2013・2014年

・再建型倒産手続における労働者の処遇
—「倒産労働法」確立への足掛かりとして
倒産法改正展望 (論文)単著/商事法務/2012年

・所有権留保と民事再生
平成22年度重要判例解説 単著/有斐閣/2011年

熊谷 久世 教授
くまがい ひさひろ

専門分野 国際私法、国際民事訴訟法

担当科目 国際私法特論Ⅰ・Ⅱ、家族法特論Ⅰ・Ⅱ、国際私法特殊研究Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・母への親権者変更を認めないイラン・イスラム法と国際私法上の公序
新・判例解説Watch (論文)単著/日本評論社/2012年

・ハーグ子の奪取条約のわが国の批准と沖縄の抱える課題
*沖縄法学*41巻 (論文)共著/沖縄国際大学/2012年

・外国における代理出産とわが国の公序
*沖縄法学*38巻 (論文)共著/沖縄国際大学/2009年

・嫡出の決定(福岡家裁平成元年5月15日審判)
ジュリスト国際私法判例百選(新法対応補正版)

・外国離婚に伴う扶養料判決の執行と公序
*沖縄法学*31号 (論文)単著/沖縄国際大学/2002年

小西 由浩 教授
こにし よしひろ

専門分野 刑事政策

担当科目 刑事法特殊研究Ⅰ・Ⅱ、刑事政策特論Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・犯罪のリスク／犯罪の危険
沖縄法学 第33号 (論文)単著/沖縄国際大学法学会/2004年

末崎 衛 教授
すえぎ まもる

専門分野 税法

担当科目 税法特論Ⅰ・Ⅱ、税法特殊研究Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・演習ノート租税法(第3版)
分担執筆/法学書院/2013年

・課税処分の違法を理由とする国家賠償請求の可否
*沖縄法学*39号 (論文)単著/沖縄国際大学法学会/2010年

・遺産分割の錯誤無効と更正の請求
*税法*561号 (論文)単著/日本税法学会/2009年

・「租税回避目的」と契約解釈—
「私法上の法律構成による否認」論の批判的検討
*税法*560号 (論文)単著/日本税法学会/2008年

伊達 竜太郎 教授
だて りゅうたろう

専門分野 会社法、国際取引法、沖縄の経済政策と法(沖縄経済特区など)

担当科目 商法特論Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・スタンダード商法シリーズ・金融商品取引法
共著/法律文化社/2021年

・会社従属法の設立準拠法主義とその展開
—適用範囲をめぐる議論を中心に
*日本私法学会私法*81号 (論文)単著/有斐閣/2019年

・スタンダード商法シリーズ・会社法
共著/法律文化社/2019年

・合併契約と設立準拠法
*国際取引法学会年報*3号 (論文)単著/国際取引法学会/2018年

・沖縄振興特別措置法に基づく経済特区の活用
～企業誘致と起業の促進という観点から～
沖縄法政研究 18号 (論文)単著/沖縄法政研究所/2016年

田中 稔 教授
たなか みのる

専門分野 民法学、損害賠償法

担当科目 民法特論Ⅰ・Ⅱ、民事法特殊研究Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・債務の目的物の価格が履行不能後値上りを続けてきた場合における損害賠償額の算定期限[最高裁第一小法廷昭和47.4.20判決]
*沖縄法学*43号 単著/沖縄国際大学法学会/2014年

・不動産登記法の解説 単著/ネットスクール/2011年

・わが国における損害賠償額の算定期限
*沖縄法政研究*12号 単著/沖縄法政研究所/2009年

・自賠法73条1項にいう「損害のてん補に相当する給付を受けるべき場合」について
*損害保険研究*71巻2号 単著/損害保険事業総合研究所/2009年

・損害賠償債務の一部の提供・供託の効果について
*沖縄法学*32号 単著/沖縄国際大学法学会/2003年

西迫 大祐 准教授
にしご だいすけ

専門分野 法哲学、フランス現代思想

担当科目 法哲学特論Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・ジャック・ヴェルジェスの司法戦略とミシェル・フーコーの哲学について
法を使う/紛争文化 (論文)単著/国際書院/2019年

・19世紀イギリスの反予防接種運動における自由と権利について
法律論叢 (論文)単著/明治大学法律研究所/2019年

・エドウィン・チャドウィックの思想における予防の起源について
法律論叢 (論文)単著/明治大学法律研究所/2018年

・感染症と法の社会史—病がつくる社会
単著/新曜社/2018年

・HIV感染の刑罰化における主体と責任について
市民的自由のための市民的熟議と刑事法 (論文)単著/勁草書房/2018年

比屋定 泰治 教授
ひやじょう やすはる

専門分野 国際法

担当科目 国際法特論Ⅰ・Ⅱ、国際法特殊研究Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・国連軍備登録制度のゆくえ
*沖縄法学*45号 単著/沖縄国際大学法学会/2017年

・武力行使禁止と自衛権
国際法入門 逆から学ぶ 共著/法律文化社/2014年

・国際機構の裁判権免除—機能的必要性と免除の範囲
*現代国際法の思想と構造*1 (論文)単著/東信堂/2012年

・米国の世界戦略と日本の安全保障政策
法政論集 245号 (論文)単著/名古屋大学大学院/2012年

・日米地位協定のゆくえ
法律時報臨時増刊・安保改定50年 (論文)単著/日本評論社/2010年

中野 正剛 教授
なかの せいごう

専門分野 刑事法学

担当科目 刑法特論Ⅰ・Ⅱ、刑事法特殊研究Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・不能犯論
新倉修先生古希祝賀論文集 (論文)単著/現代人文社/2019年

・不能犯論・覚書
理論刑法学の探求@ (論文)単著/成文堂/2017年

・オルトランの未遂犯論
*刑法雑誌*55巻2号 (論文)単著/有斐閣/2016年

・少年の責任とは何か？
NCCD 125号 (論文)単著/全国犯罪非行協議会/2015年

・未遂犯論の基礎
単著/成文堂/2014年

前津 榮健 教授
まえつ えいけん

専門分野 行政法、地方自治法

担当科目 公法特殊研究Ⅰ・Ⅱ、行政法特論Ⅰ・Ⅱ

主な著書・論文

・ベーシック行政法(第3版)
共著/法律文化社/2021年

・議会改革の現状と課題 —アンケート調査結果を中心に—
自治体改革の今 共著/編集工房東洋企画/2014年

・地方自治の法と行財政
共著/八千代出版/2012年

・個人情報保護法制定の意義と課題
うまんちゅ法律講座 共著/編集工房東洋企画/2010年

・基地と情報公開
基地をめぐる法と政治 共著/編集工房東洋企画/2006年

大学院の入学から修了まで

第1セメスター 一年(前期)	第2セメスター 一年(後期)	第3セメスター 二年(前期)	第4セメスター 二年(後期)
<p>上旬 入学/専門領域指導教員の確定(地産)</p> <p>上旬 専門領域の確定(法学)</p> <p>上旬 専攻の特研究の選択・研究領域の確定(地産)</p> <p>5月～7月 先行研究業績の整理、概観研究方法・研究態度・論文の書き方を学習</p> <p>8月上旬～9月下旬 夏期集中講義</p>	<p>中旬 修士論文テーマ提出</p> <p>10月～12月 研究課題の意義、研究方法、先行研究業績について概要を整理</p> <p>下旬 修士論文概要提出指導教員の承認</p>	<p>4月～6月 先行研究業績の精査、文献研究と予備調査(事前分析)の実施</p> <p>8月～9月 データ収集と分析・整理</p> <p>上旬 修士論文中間発表(地文・地産)</p>	<p>10月～1月 修士論文の作成</p> <p>中旬 修士論文最終試験(口述試験)</p> <p>中旬 大学院修了式・学位取得</p> <p>上旬 修士論文最終発表(地文)</p> <p>中旬 修士論文中間発表(法学)</p>
4月	10月	4月	10月
5月	11月	5月	11月
6月	12月	6月	12月
7月	1月	7月	1月
8月	2月	8月	2月
9月	3月	9月	3月

教育・研究を支援する様々な制度

昼夜開講制

社会人や有職者が受講しやすいように、夜間を中心に午前9時から午後9時40分までの時間帯に講義を開講しています。集中講義も主に夜間の時間帯に開講が予定されています。

セメスター制

本大学院はセメスター制を導入しているため、休学や復学が学期ごとに可能で、修了までの学習計画が立てやすくなっています。これにより、社会人や有職者へのより柔軟な学習機会の提供が可能にしています。

長期履修生制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限を超える一定の期間内に計画的に履修し、修了を目指すことができる制度です。申請が認められた場合、標準修業年限経過後の授業料等が減額され、経済的負担が軽減されます。

再入学制度

過去に本大学院を退学又は除籍した者が、前学籍と同一の研究科・専攻・領域に入学し、修了を目指すための制度です。

科目等履修生

本大学院において開設される授業科目のうち、希望科目のみを履修する制度です。履修した授業科目について試験を受け、合格した場合は所定の単位を修得することができますが、履修できる単位数は年間12単位以内です。

補完的な教育

—学士課程の授業科目の履修促進—

学部の科目等履修制度を活用し、修士課程の履修に必要な学修を補完する教育の提供を行っています。詳しくは、沖縄国際大学学務課学務二担当 (TEL 098-893-8950) までお問合せ下さい。

大学院研究生

原則として本大学院修士課程を修了した者で、特定のテーマについて研究指導を受けることを目的に本学に籍をおく者です。在籍期間は1年で、研究期間が終了する2ヶ月前に研究成果を提出し、審査を受けなければなりません。なお、学位および単位の修得はできません。

単位互換制度

沖縄県4大学(沖縄大学、沖縄国際大学、名桜大学、琉球大学)の人文社会科学系大学院間の単位互換に関する協定に基づき、他大学院で科目履修および単位の修得ができる制度です。指導教員と相談のうえ履修科目を決定し、当該科目を提供する協定大学院の定める登録手続きを行うことにより受講することができます。

本大学院で取得できる資格

研究科名	専攻名	教員免許状の種類	免許教科
地域文化研究科	南島文化専攻	中学校教諭専修免許状	国語
		中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	国語
	英米言語文化専攻	高等学校教諭専修免許状	地理歴史
		高等学校教諭専修免許状	公民
		中学校教諭専修免許状	英語
人間福祉専攻 臨床心理学領域	高等学校教諭専修免許状	英語	
	高等学校教諭専修免許状	公民	
	中学校教諭専修免許状	英語	
地域産業研究科	地域産業専攻	中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	公民
		高等学校教諭専修免許状	商業
		高等学校教諭専修免許状	情報
法学研究科	法律学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	公民

※当該教科の第1種免許状を取得していること。 ※大学院当該専攻の所定単位を24単位以上取得すること。
※修士の学位を取得すること(1年以上在学し、30単位以上取得した場合を含む)。

専門社会調査士

専門社会調査士とは、一般社団法人 社会調査協会が認定する資格であり、社会調査の問題点や妥当性等の指摘はもちろんのこと、多様な調査手法を用いた調査企画能力、実際の調査を運営管理する能力、高度な分析手法による報告書執筆などの実践能力を有する者に与えられます。専門社会調査士資格を取得するためには、社会調査士資格を取得した上で、一般社団法人 社会調査協会が設定した標準カリキュラムであるH～J科目に対応する3科目の単位を取得する必要があります。本研究科では、この3科目に対応する科目を、下記のように開設しています。

	社会調査士資格認定機構指定科目	科目概要	本大学院開講科目	単位
H	調査企画・設計に関する演習(実習)科目	社会調査を実践的に企画・設計し、実施し、分析・集計をおこなうための実践的な知識と能力を習得する科目。	南島地理学特論Ⅰ 社会学研究法特論	2 2
I	多変量解析に関する演習(実習)科目	多変量解析に共通する計量モデルを用いた分析法を基本的に理解し、コンピュータを用いて実際に使用することのできる能力を習得する科目。	社会統計学特論	2
J	質的調査法に関する演習(実習)科目	質的データの分析法を習得するとともに、質的調査法に関する基本的理解を踏まえながら、そのものについての実践的な能力を習得する科目。	比較社会文化特論Ⅱ	2

※社会調査士資格を有すること。 ※標準カリキュラムH～Jに対応した科目単位を取得すること。
※社会調査結果を用いた修士論文を執筆すること。 ※修士課程(南島文化専攻)を修了すること。

入学金および諸学費

種別			金額(円)		
入学金			120,000		
授業料	前期	185,000	後援会費	年額	12,000
	後期	185,000	校友会費	終身会費	20,000
施設設備資金	前期	50,000	学生保険料	在学期間(2年分)	2,430
	後期	50,000		合計(初年度納入金)	624,430

※入学金は本学卒業生は半額。

※校友会費は本学卒業生は免除。

奨学金制度

大学院研究奨励奨学金

大学院に在学する学生に対し、奨学金を給付することによって大学院に期待される高度な学習活動および研究活動を奨励し、標準修業年限内に充実した研究成果をあげさせることを目的として給付します。

支給対象者は学業・人物ともに優れ、標準修業年限内に修了見込みの者で、支給額は授業料の半額相当額を給付します。

長濱眞徳博士記念大学院奨学金

大学院に在学する学生に対して、標準修業年限内で大学院に期待される高度な学習活動および研究活動を奨励し、充実した研究成果をあげさせることを目的として、年額100,000円を給付します。

波平勇夫大学院博士課程奨学金

大学院修士課程修了見込者及び大学院研究生で、大学院博士後期課程に進学が決定している学生に対し給付します。奨学金の給付額は、1人年額100,000円です。

沖縄国際大学後援会奨学金

学業・人物ともに良好で、家計支持者の事情で修学が困難な学生に対し授業料の半額相当額を給付します。

沖縄国際大学外国人留学生奨学金

本学正規課程に在籍し、「留学」の在留資格を有する私費外国人留学生で人物、学業ともに優秀かつ国内外の教育、研究、国際交流等の促進に寄与する者に対し、授業料の半額相当分(185,000円)を給付します。

研究環境

13号館

13号館は大学院の機能を有する施設です。講義室のほかに資料室、自習室、共同研究室(パソコン・コピー機設置)等を備えています。

図書館

大学院生の研究活動を支援する目的として、2階及び地下2階に研究個室(パソコン常置)を21室設置しています。また、貸出中圖書の予約はWeb経由で可能です。さらに、本学図書館で所蔵していない資料を他機関から「文献複写」や「相互貸借」で取り寄せることができるILL(図書館間相互利用)サービスもWeb経由で申込みが可能です。利用方法等はレファレンスカウンターにてお問い合わせください。また毎年、データベース等を利用した資料収集方法を案内するステップアップガイドダンスを実施し、よりの確で効率的な研究活動を支援しています。

研究所

本学には、南島文化研究所、産業総合研究所、沖縄法政研究所、沖縄経済環境研究所が設置されています。これらの研究所は、独自の地域研究を行うとともに、研究成果を地域に還元しています。研究会やセミナー等は、大学院生にも広く活用されています。



13号館



図書館研究個室

沖縄国際大学校友会留学生奨学金

学業・人物ともに優秀で、経済的理由により修学困難な私費外国人留学生に対し、年額50,000円を給付します。

公益財団法人ロータリー米山記念奨学金

日本国外の国籍を有し、学業・人物ともに優秀で、米山奨学生選考委員会で実施する書類および面接選考に合格したのに対し、月額140,000円を給付します。

公益財団法人平和中島財団外国人留学生奨学金

日本の大学に在籍する私費留学生で、学業・人物ともに優秀であり、経済的援助を必要とする者に対して、選考の上、月額100,000円を1年間給付します。

日本学生支援機構奨学金

学業・人物ともに優れ、経済的理由により修学が困難な者に対して募集・選考し、奨学金貸与を行います。

日本学生支援機構奨学金には第一種(無利子)と第二種(有利子)があり貸与月額は、第一種50,000円または88,000円、第二種は50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円の中から選択。

入学者選抜試験日程

前期日程	一般選抜試験 推薦選抜試験		社会人選抜試験 外国人特別選抜試験	
	試験日	出願期間	試験日	出願期間
	2022年 10月2日(日)	2022年 8月15日(月)~19日(金)	2023年 1月29日(日)	2022年 12月9日(金)~15日(木)
	2022年 10月13日(木) 午前11時		2023年 2月15日(水) 午前11時	

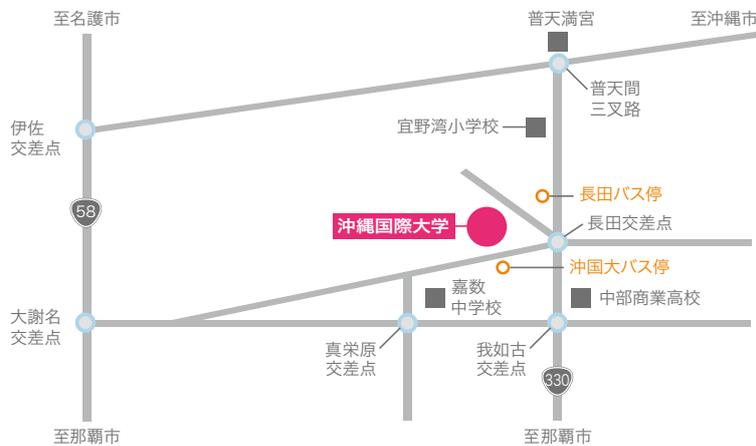
2022(令和4)年度 大学院入学者選抜試験 志願者数・合格者数

研究科・専攻・領域	志願者数							合格者数								
	推薦	一般	社会人	外国人	出願資格 審査	出願資格 審査合格者	合計	推薦	一般	社会人	外国人	出願資格 審査	出願資格 審査合格者	合計		
地域文化研究科	南島文化 専攻	言語文化	2	1	0	—	0	0	3	2	1	0	—	0	0	3
		民俗文化	1	0	1	—	0	0	2	1	0	0	—	0	0	1
		先史・歴史文化	1	0	0	—	0	0	1	1	0	0	—	0	0	1
		社会文化	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0
		小計	4	1	1	0	0	0	6	4	1	0	0	0	0	5
	英米言語 文化専攻	英米文学	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0
		言語教育学	4	0	1	—	0	0	5	4	0	1	—	0	0	5
		小計	4	0	1	0	0	0	5	4	0	1	0	0	0	5
	人間福祉 専攻	社会福祉学	0	0	2	—	—	—	2	0	0	1	—	—	—	1
		臨床心理学	0	25	6	—	—	—	31	0	8	1	—	—	—	9
小計		0	25	8	0	0	0	33	0	8	2	0	0	0	10	
合計	8	26	10	0	0	0	44	8	9	3	0	0	0	20		
地域産業研究科	地域産業 専攻	経済	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0	0	—	—	0
		沖縄・環境経済	0	0	1	0	—	—	1	0	0	1	0	—	—	1
		経営	0	0	0	1	—	—	1	0	0	0	1	—	—	1
		産業情報	0	0	1	2	—	—	3	0	0	1	2	—	—	3
	合計	0	0	2	3	0	0	5	0	0	2	3	0	0	5	
法学研究科	法学専攻	公法・基礎法	1	6	13	—	2	2	24	0	2	3	—	2	1	8
		民・刑事法	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0
	合計	1	6	13	0	2	2	24	0	2	3	0	2	1	8	
総合計	9	32	25	3	2	2	73	8	11	8	3	2	1	33		

研究科説明会

地域文化研究科	●南島文化専攻 日時:2022年7月9日(土)13:00~14:00 場所:言語文化/5号館302教室、民俗文化/5号館303教室、先史歴史文化/5号館312教室 社会文化/5号館313教室
	●英米言語文化専攻 日時:2022年7月9日(土)13:00~15:00 場所:5号館314教室
	●人間福祉専攻(社会福祉学領域) 日時:2022年7月9日(土)11:00~ 場所:3号館106教室
	●人間福祉専攻(臨床心理学領域) 日時:2022年7月9日(土)13:00~ 場所:3号館106教室
地域産業研究科	日時:2022年7月30日(土) 12:20~12:50 場所:13号館301教室
法学研究科	日時:2022年6月18日(土) 10:00~ 場所:13号館502教室
	日時:2022年11月19日(土) 10:00~ 場所:13号館502教室

※新型コロナウイルス感染症等により、開催日時や開催方法に変更が生じる可能性があります。変更については、ホームページをご確認ください。



○ 空港・那覇南部方面からのアクセス

路線バス

所要時間: 約70分 / 料金620円
 ♪バス停: 国内線旅客ターミナル前より乗車
 ♪バス停: 長田下車、徒歩7分
 125 普天間空港線 (20分~1時間間隔)

モノレール ▶ 路線バス
モノレール

所要時間: 約11分 / 料金270円
 旭橋駅下車、
 那覇バスターミナル隣接

路線バスのりかえ

所要時間: 約50分 / 料金570円~610円
 ♪バス停: 那覇バスターミナルより乗車

- 90 知花線 (15~30分間隔) ♪バス停: 長田下車、徒歩約7分
- 92 那覇~イオンモール線 (1日4本) ♪バス停: 長田下車、徒歩約7分
- 98 琉大線 (20~30分間隔) ♪バス停: 沖縄国際大学前下車
- 110 長田具志川線 (30分~1時間間隔) ♪バス停: 沖縄国際大学前下車
- 21 新都心具志川線 (30~40分間隔) ♪バス停: 長田下車、徒歩約7分
- 24 那覇大謝名線 (30~40分間隔) ♪バス停: 長田下車、徒歩約7分
- 27 屋慶名(やけな)線 (20~60分間隔) ♪バス停: 長田下車、徒歩約7分
- 25 那覇普天間線 (30~40分間隔) ♪バス停: 長田下車、徒歩約7分
※午前9時台以降の出発バスはなし

所要時間: 約37分 / 料金370円
 てだこ浦西駅下車

所要時間: 約20分 / 料金220円
 ♪バス停: てだこ浦西駅より乗車
 297 沖国琉大快速線 (1日7本) ♪バス停: 沖縄国際大学前下車

所要時間: 約37分 / 料金370円
 てだこ浦西駅下車

所要時間: 約26分 / 料金260円
 ♪バス停: 西原入口より乗車
 97 琉大線 (20~30分間隔) ♪バス停: 長田下車、徒歩約7分
 125 普天間空港線 (20~60分間隔) ♪バス停: 長田下車、徒歩約7分

タクシー

所要時間: 約40分 / 料金約2,500円

高速バス ▶ 路線バス

所要時間: 約40分 / 料金750円
 ♪バス停: 国内線旅客ターミナル前より乗車
 111 高速バス (30分間隔) ♪バス停: 琉大入口下車、徒歩約3分
 152 高速バス (1日4本) ♪バス停: 琉大入口下車、徒歩約3分

所要時間: 約10分 / 料金160円
 ♪バス停: 琉大北口駐車場より乗車
 98 琉大線 (20~30分間隔) ♪バス停: 沖縄国際大学前下車
 297 沖国琉大快速線 (1日7本) ♪バス停: 沖縄国際大学前下車

那覇空港

沖縄国際大学

○ 北部方面からのアクセス

高速バス ▶ 路線バス

所要時間: 約70分 / 料金1,790円
 ♪バス停: 名護バスターミナルより乗車
 111 高速バス (30分間隔) ♪バス停: 琉大入口下車、徒歩約3分

所要時間: 約10分 / 料金160円
 ♪バス停: 琉大北口駐車場より乗車
 98 琉大線 (20~30分間隔) ♪バス停: 沖縄国際大学前下車
 297 沖国琉大快速線 (1日7本) ♪バス停: 沖縄国際大学前下車

路線バス ▶ 路線バス

所要時間: 約110分 / 料金1,680円
 ♪バス停: 名護バスターミナルより乗車
 120 名護西空港線 (15~30分間隔) ♪バス停: 大謝名下車

所要時間: 約15分 / 料金210円
 ♪バス停: 大謝名より乗車
 27 屋慶名(やけな)線 (15~30分間隔) ♪バス停: 長田下車、徒歩約7分

名護バスターミナル

沖縄国際大学

選抜試験に関するお問い合わせ先

沖縄国際大学入試センター

〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目6番1号
 TEL.098-893-8945 FAX.098-893-3271
<https://www.okiu.ac.jp/graduate/admission>
 e-mail : entchr@okiu.ac.jp

